人間と社会

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 社会の理解Ⅰ | 山下　科子 | | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 生活の基本機能とライフサイクルの変化及び家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で、地域社会における生活支援について学び、地域共生社会の実現に向けた制度や施策、社会保障制度、社会福祉と介護保険制度、障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるのかを具体的に学ぶ。地域社会における生活とその支援について基礎的な知識、社会保障の制度・施策について基礎的な知識を習得することを目的とする。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 個人・家族・地域・社会のしくみ、生活の構造、自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。<br>2. 地域共生社会、地域包括ケアシステムについて理解できる。<br>3. 社会保障制度のしくみと現状を理解できる。<br>4. 権利擁護など介護実践に関連する制度や施策が理解できる。 | 関連する科目と合わせて学習すること。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書、資料等を使用しながら講義する。 | 小テストを10回程度実施するため、復習をしておくこと。新聞やニュースなどからも社会の動きを把握しておくと理解を深めることができる。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期テスト80%、小テスト・レポート等20%を総合的に判断する。 | 教科書：中央法規出版　最新介護福祉士養成講座２「社会の理解」第２版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　社会の生活としくみ①　生活の基本機能 |
| 2 | 社会の生活としくみ②　ライフスタイルの変化　家族の機能と役割 |
| 3 | 社会の生活としくみ③　社会・組織の機能と役割　生活を支えるしくみ　地域社会における生活支援 |
| 4 | 地域共生社会の実現に向けた制度や施策①　地域福祉の発展 |
| 5 | 地域共生社会の実現に向けた制度や施策②　地域共生社会　地域包括ケア |
| 6 | 社会保障制度①　社会保障の基本的な考え方 |
| 7 | 社会保障制度②　社会保障の基本的な考え方 |
| 8 | 社会保障制度③　日本の社会保障制度の発達 |
| 9 | 社会保障制度④　日本の社会保障制度の発達 |
| 10 | 社会保障制度⑤　日本の社会保障制度のしくみ |
| 11 | 社会保障制度⑥　日本の社会保障制度のしくみ |
| 12 | 社会保障制度⑦　現代社会と社会保障制度 |
| 13 | 介護実践における諸制度①　個人の権利を守る制度 |
| 14 | 介護実践における諸制度②　保健医療に関する制度 |
| 15 | まとめ |

人間と社会

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 社会の理解Ⅱ | 山下　科子 | | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 高齢者保健福祉制度・障害者保健福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度・障害者総合支援制度の内容を理解し、高齢者福祉・障害者福祉の現状と課題をとらえる。また、人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護など、介護実践に関連する制度・政策の基本的な考え方を理解する。地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識、および社会保障の制度・政策について基礎的な知識を身につけることを目的とする。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 高齢者保健福祉と介護保険制度について理解できる。<br>2. 障害者保健福祉と障害者総合支援制度について理解できる。<br>3. 貧困と生活困窮に関する制度、地域生活を支援する制度について理解できる。 | 関連する科目と合わせて学習すること。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書、資料等を使用しながら講義する。 | 小テストを10回程度実施するため、復習をしておくこと。新聞やニュースなどからも社会の動きを把握しておくと理解を深めることができる。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期テスト80%、小テスト・レポート等20%を総合的に判断する。 | 教科書：中央法規出版　最新介護福祉士養成講座２「社会の理解」第２版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　高齢者保健福祉と介護保険制度①　高齢者保健福祉の動向 |
| 2 | 高齢者保健福祉と介護保険制度②　高齢者保健福祉に関連する法体系 |
| 3 | 高齢者保健福祉と介護保険制度③　介護保険制度創設の背景と目的 |
| 4 | 高齢者保健福祉と介護保険制度④　介護保険制度のしくみの基本的理解 |
| 5 | 高齢者保健福祉と介護保険制度⑤　介護保険制度のしくみの基本的理解 |
| 6 | 高齢者保健福祉と介護保険制度⑥　介護保険制度における組織、団体の役割　介護支援専門員の役割 |
| 7 | 高齢者保健福祉と介護保険制度⑦　介護保険制度の動向 |
| 8 | 障害者保健福祉と障害者総合支援制度①　障害者福祉の動向　障害者の定義 |
| 9 | 障害者保健福祉と障害者総合支援制度②　障害者保健福祉に関する制度 |
| 10 | 障害者保健福祉と障害者総合支援制度③　障害者総合支援制度 |
| 11 | 障害者保健福祉と障害者総合支援制度④　障害者総合支援制度 |
| 12 | 障害者保健福祉と障害者総合支援制度⑤　障害者総合支援制度 |
| 13 | 介護実践に関連する諸制度①　貧困と生活困窮に関する制度 |
| 14 | 介護実践に関連する諸制度②　地域生活を支援する制度 |
| 15 | まとめ |

人間と社会

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 生活の理解と基礎教養 | ｴｽﾄﾘｰｼﾞｮ ﾗﾌﾞﾘｰ<br>芝田 由佳 | | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 日本の高齢者の日常生活の楽しみや四季折々の行事、伝統的な遊びなどを通じて地域における生活や文化を学ぶ。また、さまざまな国の生活や文化について知り、介護現場を支える外国人人材についての理解をする。職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を身につけることを目的とする。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・日本の四季折々の行事や伝統的な遊び、文化などについて知ることができる。<br>・日本以外の国について興味を持ち、介護現場を支える外国人人材について理解できる。<br>・自己を認識し振り返りながら、社会人としての基礎的な力を身につけることができる。 | 積極的に考え行動する姿勢をもって臨むこと。誰もが発言しやすい雰囲気をつくるとともに、協働する意識をもつこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| ・映像や資料を使い講義を行う。<br>・個別ワークやグループワークを行う。 | 準備を行ったうえで授業に臨むこと。課題が出された場合は、自己学習をうこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| レポート等の個人の成果物30%、グループ活動での成果物30%、授業への参加度40%。参加度は「関心・意欲・態度」で評価する。 | 配布資料　等 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 日本の四季について |
| 3 | 日本の伝統的な遊びについて |
| 4 | 日本の伝統的な食事・郷土食について |
| 5 | 日本の歴史的背景について　高齢者が生きてきた時代について |
| 6 | 日本の文化・地域の伝統行事について |
| 7 | さまざまな国の生活について① |
| 8 | さまざまな国の生活について② |
| 9 | さまざまな国の生活について③ |
| 10 | さまざまな国の生活について④ |
| 11 | 社会人基礎力① |
| 12 | 社会人基礎力② |
| 13 | 社会人基礎力③ |
| 14 | 社会人基礎力④ |
| 15 | まとめ |

人間と社会

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 情報科学 | 髙山　恭平 | □ | | 1単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護福祉の現場で資料作成、情報ツールや研究的視点から、情報機器の活用は不可欠である。一般的な文章の作成方法や管理についての理解を深め、効率的な操作方法を学ぶ。<br>Word、PowerPointやメールについての基礎を学び、また情報リテラシーなど社会人としての基礎能力を養うことを目的とする。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・Wordの基本的な使い方を理解し作成できる。<br>・PowerPointの基本的な使い方を理解し見やすい資料が作成できる。<br>・情報リテラシーについて理解することができる。 | パソコンやタブレットを利用する。経験値について事前に確認する。経験が少ない者はあらかじめ申し出ること。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| ・資料等を利用し、Word、PowerPointの演習を行う。<br>・パソコンやタブレットを使用し授業を行う。 | 情報の管理について常に意識し、積極的にパソコンや機器を利用して学習すること。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 授業中の課題の取り組み50%、定期試験50% | 配布資料等 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　フォルダー管理　情報リテラシー |
| 2 | Word実習①　「文章の作成と管理」 |
| 3 | Word実習②　「文章の作成と管理」 |
| 4 | Word実習③　「文章の作成と管理」 |
| 5 | Word実習④　「文章の作成と管理」 |
| 6 | Word実習⑤　「文章の作成と管理」 |
| 7 | Word実習⑥　「一般的なビジネス文章の作成」 |
| 8 | Word実習⑦　「一般的なビジネス文章の作成」 |
| 9 | Word実習⑧　「メール文章の作成」 |
| 10 | PowerPoint実習①　「基本的な使い方」 |
| 11 | PowerPoint実習②　「基本的な使い方」 |
| 12 | PowerPoint実習③　「基本的な使い方」 |
| 13 | PowerPoint実習④　「基本的な使い方」 |
| 14 | まとめ |
| 15 | 総まとめ |

人間と社会

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 人間の尊厳と自立 | 大輪　広美 | ☑ 看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 人権思想の歴史的展開や福祉理念の変遷とともに、人間の尊厳や人権・権利擁護について学ぶ。また、自立の考え方について学ぶとともに、尊厳を守る介護と自立支援の関係性を理解することをめざす。人間の多面的な理解を基礎に、介護福祉士としての倫理基盤を養うことを目的とする。 | 2年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・人権思想や福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳と人権尊重および権利擁護の考え方を述べることができる。<br>・人間にとっての自立の意味と、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解し、地域社会における支援についての説明ができる。 | 積極的に考える姿勢を持って臨むこと。また、誰もが自由に発言しやすい雰囲気を全員で意識して創ること。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書・配布資料などを活用しての講義及びグループでのワークを組み合わせる。 | 教科書、資料、また図書室等を利用し、さまざまな考え方や歴史について自己学習すること。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験80%、グループワークへの参加状況、課題レポート等の提出物他20%を総合的に判断する。 | 教科書：中央法規出版　最新介護福祉士養成講座１「人間の理解」第２版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション・人間の尊厳と人権・福祉理念①　人間の尊厳と利用者主体 |
| 2 | 人間の尊厳と人権・福祉理念②　人権思想の潮流とその具現化 |
| 3 | 人間の尊厳と人権・福祉理念③　人権や尊厳に関する日本の諸規定 |
| 4 | 人間の尊厳と人権・福祉理念④　社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷　人は人をどのように援助しようとしてきたか1 |
| 5 | 人間の尊厳と人権・福祉理念⑤　社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷　人は人をどのように援助しようとしてきたか2 |
| 6 | 人間の尊厳と人権・福祉理念⑥　社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷　戦後の新たな福祉のあり方への模索１ |
| 7 | 人間の尊厳と人権・福祉理念⑦　社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷　戦後の新たな福祉のあり方への模索２ |
| 8 | 人間の尊厳と人権・福祉理念⑧　人権尊重と権利擁護 |
| 9 | 人権思想から人間の尊厳について学ぶ |
| 10 | 自立のあり方①　自立の概念と多様性 |
| 11 | 自立のあり方②　自立とは |
| 12 | 自立のあり方③　介護を必要とする人の自立と自立支援 |
| 13 | 自立のあり方④　介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、自立支援の必要性 |
| 14 | 利用者の自立支援について考える |
| 15 | まとめ |

人間と社会

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人間関係と<br>コミュニケーション | 髙山　恭平 | ☑ | 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 自分と他者を理解するということ、また自分と他者が影響し合っていることを学ぶとともに、コミュニケーションの基礎として、コミュニケーションの概念と言語的・非言語的コミュニケーションの特徴・機能について学ぶ。受容・共感・傾聴といった基本的態度や援助関係のための原則について学ぶほか、チームで働くにあたって必要となる組織におけるコミュニケーションの特徴などを学ぶ。人間の多面的な理解を基礎にコミュニケーションの基本を学ぶことを目的とする。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・自分と他者を理解するということや自己覚知や自己開示について理解できる。<br>・人の発達に伴う人間関係の広がりや成長を自らの経験と照らし合わせ、言葉で表現することができる。<br>・コミュニケーションの概念や基本構造、手段について理解し説明できる。 | 積極的に考える姿勢で臨むこと。また、誰もが自由に発言しやすい雰囲気を全員で意識して創ること。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書・配布資料などを活用しての講義及びグループでのワークを組み合わせる。 | コミュニケーション技術と深く関係する科目である。関連する科目も含め、予習・復習を行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験80%、課題レポート等の提出物他20%を総合的に判断する。 | 教科書：中央法規出版　最新介護福祉士養成講座１「人間の理解」第２版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション・人間と人間関係①　人間の誕生と介護の関係 |
| 2 | 人間と人間関係②　自分と他人の理解 |
| 3 | 人間と人間関係③　発達心理学からみた人間関係 |
| 4 | 人間と人間関係④　社会心理学からみた人間関係 |
| 5 | 人間と人間関係⑤　人間関係とストレス |
| 6 | 対人関係におけるコミュニケーション①　コミュニケーションの概念 |
| 7 | 対人関係におけるコミュニケーション②　コミュニケーションの基本構造 |
| 8 | 対人関係におけるコミュニケーション③　コミュニケーションの手段 |
| 9 | 対人援助関係とコミュニケーション①　対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション |
| 10 | 対人援助関係とコミュニケーション②　対人援助における基本的態度 |
| 11 | 対人援助関係とコミュニケーション③　援助的人間関係の形成とバイスティックの７つの原則 |
| 12 | 組織におけるコミュニケーション①　組織の条件とコミュニケーションの特徴 |
| 13 | 組織におけるコミュニケーション②　組織における情報の流れ |
| 14 | 組織におけるコミュニケーション③　組織において求められるコミュニケーション |
| 15 | まとめ |

人間と社会

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| チームマネジメント | 山下　科子 | ☑ | 看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護サービスがヒューマンサービスであるとともに、介護福祉士にチームマネジメントが求められる背景とチームマネジメントの全体像、共働のあり方やチームの力を最大限に発揮するための取り組みについて学ぶ。また、チームの実践力の向上につながる人材育成・自己研鑽、また組織の構造と機能や役割や質の高いサービスを組織が支えていることを学ぶ。人間の多面的な理解を基礎に、チームで働く能力の基礎を養うことを目的とする。 | 2年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材育成や活用等の人材管理について理解できる。<br>・リーダーシップ・フォロワーシップ等のチーム運営の基本が理解できる。<br>・介護福祉職としての自らのキャリアデザインを考え表現することができる。 | 人間関係とコミュニケーションの基礎を踏まえ、実習で知り得た組織等について考えながら、自らのキャリアデザインについて考えるなど、実践的な学びのために積極的な姿勢を持ち授業に臨むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書・配布資料などを活用しての講義及びグループでのワークを組み合わせる。 | 人間関係とコミュニケーションの復習をすること。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験70%、グループワークへの参加状況、課題レポート等の提出物他30%を総合的に判断する。 | 教科書：中央法規出版　最新介護福祉士養成講座１「人間の理解」第２版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　介護におけるチームマネジメントの意義①　ヒューマンサービスとしての介護サービス |
| 2 | 介護におけるチームマネジメントの意義②　介護現場で求められるチームマネジメント |
| 3 | 介護におけるチームマネジメントの意義③　介護実践におけるチームマネジメント |
| 4 | ケアを展開するためのチームマネジメント①　ケアを展開するために必要なチームとその取り組み |
| 5 | ケアを展開するためのチームマネジメント②　チームでケアを展開するためのマネジメント |
| 6 | ケアを展開するためのチームマネジメント③　チームの力を最大化するためのマネジメント |
| 7 | 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①　介護福祉職のキャリアと求められる実践力 |
| 8 | 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②　介護福祉職としてのキャリアデザイン |
| 9 | 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③　介護福祉職のキャリア支援・開発 |
| 10 | 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント④　自己研鑽に必要な姿勢 |
| 11 | 介護福祉士としてのキャリアをイメージする |
| 12 | 組織の目標達成のためのチームマネジメント①　介護サービスを支える組織の構造 |
| 13 | 組織の目標達成のためのチームマネジメント②　介護サービスを支える機能と役割 |
| 14 | 組織の目標達成のためのチームマネジメント③　介護サービスを支える組織の管理 |
| 15 | まとめ |

人間と社会

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護ゼミナールⅠ | 髙山恭平　工藤和子<br>芝田由佳　山下科子 | ☑ | 介護福祉士・看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/60時間 | 30回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 地域の現状を把握し、介護福祉や介護福祉士の必要性について学ぶ。ゼミ活動や地域活動、ボランティア活動、特別講話、グループ活動等、２年間を通してさまざまな活動を実践し、自ら考え行動する力を養う。１年次には地域活動として地域のミニデイに参加し、地域の高齢者との交流を行い、介護福祉士を目指す者として自ら学び行動する姿勢を培う。 | 1年次 | 前期/後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・近隣地域の現状を把握することができる。<br>・地域活動のための準備や実践、振り返りをすることができる。<br>・活動を通して自らを振り返り、活動に活かすことができる。<br>・活動の状況や知り得たことを報告会で報告することができる。 | 活動前に活動内容や、役割分担を把握しておくこと。自分の感じたことや考えを表現することを積極的に行うこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 配布資料やワークシート等を用いて授業を行う。学生がチームをつくり活動を計画して実施・振り返り、報告会等を行う。またフィールドワークや外部講師の講演なども行う。 | 役割分担等担当者が協力して、準備や片付けを行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| レポート等の個人の成果物30%、グループ活動での成果物30%、授業への参加度40%。参加度は「関心・意欲・態度」で評価する。 | なし |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　異文化理解（コミュニケーション） |
| 2 | 学生交流Ⅰ① |
| 3 | 学生交流Ⅰ② |
| 4 | ボランティア概論① |
| 5 | ボランティア概論② |
| 6 | 特別講話Ⅰ |
| 7 | 地域活動Ⅰ準備① |
| 8 | 地域活動Ⅰ準備② |
| 9 | 地域活動Ⅰ準備③ |
| 10 | 地域活動Ⅰ準備④ |
| 11 | 地域活動Ⅰ①（地域の高齢者との交流） |
| 12 | 地域活動Ⅰ②（地域の高齢者との交流） |
| 13 | 学生交流Ⅱ① |
| 14 | 学生交流Ⅱ② |
| 15 | 振り返り |
| 16 | ボランティア概論③ |
| 17 | ボランティア概論④ |
| 18 | 特別講話Ⅱ |
| 19 | 地域活動Ⅱ① |
| 20 | 地域活動Ⅱ② |
| 21 | 学生交流Ⅲ① |
| 22 | 学生交流Ⅲ② |
| 23 | 特別講話Ⅲ |
| 24 | グループ活動① |
| 25 | グループ活動② |
| 26 | グループ活動③ |
| 27 | 活動報告会準備① |
| 28 | 活動報告会準備② |
| 29 | 活動報告会準備③ |
| 30 | 活動報告会 |

人間と社会

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護ゼミナールⅡ | 工藤和子　髙山恭平<br>芝田由佳　山下科子 | ☑ | 介護福祉士・看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/60時間 | 30回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 地域の現状を把握し、介護福祉や介護福祉士の必要性について学ぶ。ゼミ活動や地域活動、ボランティア活動、特別講話、グループ活動等、２年間を通してさまざまな活動を実践し、自ら考え行動する力を養う。また、２年間の実習を通してのエピソードや介護過程の展開により技術コンテストへの参加を行い介護の魅力を発信する。 | 2年次 | 前期/後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・近隣地域の現状を把握することができる。<br>・介護技術コンテストに参加するためのグループ活動ができる。<br>・活動を通して自らを振り返り、活動に活かすことができる。<br>・活動の状況や知り得たことを報告会で報告することができる。 | 活動前に活動内容や、役割分担を把握しておくこと。自分の感じたことや考えを表現することを積極的に行うこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 配布資料やワークシート等を用いて授業を行う。学生がチームをつくり活動を計画して実施・振り返り、報告会等を行う。またフィールドワークや外部講師の講演なども行う。 | 役割分担等担当者が協力して、準備や片付けを行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 個人の成果物30%、グループ活動での成果物30%、授業への参加度40%。参加度は「関心・意欲・態度」で評価する。 | なし |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 介護現場や地域の連携Ⅰ① |
| 3 | 介護現場や地域の連携Ⅰ② |
| 4 | 介護現場や地域の連携Ⅰ③ |
| 5 | グループ活動Ⅰ① |
| 6 | グループ活動Ⅰ② |
| 7 | グループ活動Ⅰ③ |
| 8 | 学生交流Ⅰ① |
| 9 | 学生交流Ⅰ② |
| 10 | 介護の魅力を伝える① |
| 11 | 介護の魅力を伝える② |
| 12 | 介護の魅力を伝える③ |
| 13 | 介護の魅力を伝える④ |
| 14 | 介護の魅力を伝える⑤ |
| 15 | 介護の魅力を伝える⑥ |
| 16 | 特別講話Ⅰ |
| 17 | グループ活動Ⅱ① |
| 18 | グループ活動Ⅱ② |
| 19 | グループ活動Ⅱ③ |
| 20 | 学生交流Ⅱ① |
| 21 | 学生交流Ⅱ② |
| 22 | 特別講話Ⅱ |
| 23 | 介護現場や地域の連携Ⅱ① |
| 24 | 介護現場や地域の連携Ⅱ② |
| 25 | 介護現場や地域の連携Ⅱ③ |
| 26 | 活動報告会準備① |
| 27 | 活動報告会準備② |
| 28 | 活動報告会準備③ |
| 29 | 活動報告会① |
| 30 | 活動報告会② |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 発達と老化の理解Ⅰ | 伊藤　美智世 | ☑ | 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響について基礎的な知識を習得し、人の一生について理解する。ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な知識を学習し、生活支援技術の根拠となる知識を習得する。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 人間の成長と発達の基礎的理解ができ、発達の段階と特徴が理解できる。<br>2. 発達の観点から老化を理解することができる。<br>3. 老年期の特徴と老化にともなう生活への影響が理解できる。<br>4. 高齢者に多い疾病や老化に伴う日常生活への影響について理解できる。<br>5. 高齢者の健康増進・維持を含めた生活支援のための基礎的知識が理解できる。 | 介護の領域に深く関連する科目であるため、介護の基本、生活支援技術に関連させた学習をすること。医学の専門用語が多く出てくるので、予習・復習を各自行ない、わからないことはそのままにしないこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書を中心に授業を行ない、適宜配布資料や人体モデルを用いて学習する。知識や基礎的概念の理解と定着のためのワーク（小テスト含む）を実施する。 | 小テストを行うため、復習を行うこと。<br>医学の専門用語が多く出てくるので、予習を各自行なうこと。課題は必ず行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験　60%　小テスト10%　課題及び授業へ取り組む姿勢　30% | 教科書：中央法規出版 最新介護福祉士養成講座11・12「ここからからだのしくみ」第2版「発達と老化の理解」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション |
| 2 | 人間の成長と発達の基礎的知識　成長の考え方 |
| 3 | 人間の成長と発達の基礎的知識　成長・発達の原則・法則 |
| 4 | 人間の成長と発達の基礎的知識　成長・発達に影響する要因 |
| 5 | 人間の発達段階と発達課題　発達理論 |
| 6 | 人間の発達段階と発達課題　発達段階と発達課題 |
| 7 | 人間の発達段階と発達課題　身体的機能の成長と発達 |
| 8 | 人間の発達段階と発達課題　発達段階における特徴的な疾病や障害 |
| 9 | 人間の発達段階と発達課題　心理的発達 |
| 10 | 人間の発達段階と発達課題　社会的発達 |
| 11 | 老年期の定義　老年期の定義 |
| 12 | 老年期の定義　老化とは |
| 13 | 老年期の定義　老年期の発達課題 |
| 14 | 老年期の定義　老年期をめぐる今日の課題 |
| 15 | まとめ |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 発達と老化の理解Ⅱ | 工藤　和子 | ☑ | 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響について基礎的な知識を習得し、人の一生について理解する。ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な知識を学習し、高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、生活支援技術の根拠となる知識を習得する。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 老年期の特徴と老化にともなう生活への影響が理解できる。<br>2. 高齢者に多い疾病や老化に伴う日常生活への影響について理解できる。<br>3. 高齢者の健康増進・維持を含めた生活支援のための基礎的知識が理解できる。 | 介護の領域に深く関連する科目であるため、介護の基本、生活支援技術に関連させた学習をすること。医学の専門用語が多く出てくるので、予習・復習を各自行ない、わからないことはそのままにしないこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書を中心に授業を行ない、適宜配布資料や人体モデルを用いて学習する。知識や基礎的概念の理解と定着のためのワーク（小テスト含む）を実施する。 | ″適宜小テストを行うため、復習を行うこと。医学の専門用語が多く出てくるので、予習を各自行なうこと。課題は必ず行うこと。″ |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験　60%　小テスト10%　課題及び授業へ取り組む姿勢　30% | 教科書：中央法規出版 最新介護福祉士養成講座11・12「ここからからだのしくみ」第2版「発達と老化の理解」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　老化に伴うこころとからだの変化と生活 |
| 2 | 老化に伴うこころとからだの変化と生活 |
| 3 | 高齢者と健康 |
| 4 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（骨格系・筋系） |
| 5 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（脳・神経系） |
| 6 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（皮膚・感覚器系） |
| 7 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（循環器系） |
| 8 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（呼吸器系） |
| 9 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（消化器系） |
| 10 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（腎・泌尿器系） |
| 11 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（内分泌・代謝系） |
| 12 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（歯・口腔疾患、悪性新生物） |
| 13 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（感染症） |
| 14 | 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点（精神疾患、その他）・保健医療職との連携 |
| 15 | まとめ |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 認知症の理解 | 工藤　和子 | ☑ | 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 認知症を医学的側面からのみでなく、心理的側面、社会的側面からも理解し、介護実践に必要な認知症の基礎、認知症をとりまく状況から見た認知症の基礎知識を学び、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになるための知識の習得を目的とする。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 認知症の原因となる代表的な疾患と、中核症状および特徴的な行動・心理症状を学び、生活への影響と関連させ理解することができる。<br>2. 認知症の人と家族に対する支援が考えられる。 | 認知症ケアの基本の授業と深く関連するため、授業で学んだことを実習等の現場で活かすことができるように積極的に授業に臨むこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書と配布資料を用いて講義を行ない、適宜グループワークを取り入れる。また、実習で出会った利用者や事例を用いた授業であり、実際の関わりを想定し、ロールプレイを用いる。 | 予習・復習を行なうこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験、課題、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。定期試験60%、課題等30%、授業へ取り組む姿勢10% | 教科書：中央法規出版　最新介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　認知症の基礎的理解（認知症のある高齢者の現状と今後　認知症とは何か） |
| 2 | 認知症の基礎的理解　（脳のしくみ） |
| 3 | 認知症の基礎的理解　（認知症の人の心理） |
| 4 | 認知症の症状・診断・治療・予防　（中核症状の理解） |
| 5 | 認知症の症状・診断・治療・予防　（生活障害の理解） |
| 6 | 認知症の症状・診断・治療・予防　（ＢＰＳＤの理解） |
| 7 | 認知症の症状・診断・治療・予防　（ＢＰＳＤの理解） |
| 8 | 認知症の症状・診断・治療・予防　（認知症の診断と重症度） |
| 9 | 認知症の原因疾患と症状・生活障害 |
| 10 | 認知症の原因疾患と症状・生活障害 |
| 11 | 認知症の原因疾患と症状・生活障害 |
| 12 | 認知症の原因疾患と症状・生活障害 |
| 13 | 認知症の治療薬・認知症の予防 |
| 14 | 認知症の治療薬・認知症の予防 |
| 15 | まとめ |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 認知症ケアの基本 | 髙山　恭平 | ☑ | 介護福祉士として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 認知症の有無にかかわらず重要な自立支援・自律支援・尊厳の保持についての学びを深める。正しい知識を持ったうえで、認知症の人の理解をするためのアセスメントツールを理解し具体的なコミュニケーションやさまざまな支援の方法を学ぶ。また環境づくりや、介護者支援、地域生活支援についてを学ぶ。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 認知症の人の理解をするためのアセスメントツールを理解することができる。<br>2. 認知症の人との具体的なコミュニケーションやさまざまな支援の方法を理解できる。<br>3. 環境づくり、介護者支援、地域生活支援について理解できる。 | 認知症の理解をしたうえで、認知症のケアでの授業で学んだことを実習等の現場で活かすことができるように積極的に授業に臨むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書と配布資料を用いて講義を行ない、適宜グループワークを取り入れる。また、実習で出会った利用者や事例を用いた授業であり、アセスメントツールを用いて個々に課題に取り組む。また、実際の関わりを想定し、ロールプレイを用いる。 | 予習・復習を行なうこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験、課題、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。定期試験60%、課題等10%、授業へ取り組む姿勢30% | 教科書：中央法規出版　最新介護福祉士養成講座 13「認知症の理解」　第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　認知症の人を取り巻く環境 |
| 2 | 認知症ケアの理念と視点　認知症当事者の視点からみえるもの |
| 3 | パーソン・センタード・ケア |
| 4 | 認知症の人の理解と特性を踏まえたアセスメントツール |
| 5 | 認知症の人の理解と特性を踏まえたアセスメントツール |
| 6 | 認知症の人とのコミュニケーション |
| 7 | 認知症の人へのケア（食事・排泄・入浴・清潔保持・休息と睡眠・活動と生きがい・BPSDのケア） |
| 8 | 認知症の人へのさまざまなアプローチ　ユマニチュード |
| 9 | 認知症の人へのさまざまなアプローチ　ユマニチュード |
| 10 | 認知症の人へのさまざまなアプローチ　バリデーション等 |
| 11 | 認知症の人の終末期医療と介護　環境づくり |
| 12 | 介護者支援　家族への支援/介護福祉職への支援 |
| 13 | 介護者支援　家族への支援/介護福祉職への支援 |
| 14 | 認知症の人の地域生活支援　制度/サービス機関/地域づくり　多職種連携と協働 |
| 15 | まとめ |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 障害の理解 | 伊藤　美智世 | ☑ | 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 障害のある人の心理や身体の機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 障害および障害のある人々に関わる本質的問題について幅広い観点から考察するとともに、社会・文化との関連において自己の「障害観」を見つめ直し、周囲の環境に配慮した生活支援を行うための根拠となる知識と具体的な生活支援の方法を習得する。 | 積極的に授業に臨むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書を基本に配布資料、スライド、映像教材を用いて授業を行う。適宜小テストを行い、理解度を確認する。実施した小テストは次回の授業時に解説し返却する。グループワーク（＝アクティブラーニング）を行うため学生の積極的な参加を求める。 | 授業前には該当ページを読んで予習をしておくこと。また、小テストを実施するので教科書、配布プリントを復習をして理解しておくこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 授業への参加度　１０％、小テスト　１０％、定期試験　８０％<br>定期試験、小テストは「知識・理解」及び「思考・判断」の観点から、授業への参加度は「関心・意欲・態度」から到達点を見る。 | 教科書：中央法規出版 最新介護福祉士養成講座14「障害の理解」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　障害のある人の心理 |
| 2 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　肢体不自由 |
| 3 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　肢体不自由 |
| 4 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　視覚障害 |
| 5 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　視覚障害 |
| 6 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　聴覚・言語障害 |
| 7 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　聴覚・言語障害 |
| 8 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　重複障害 |
| 9 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　内部障害 |
| 10 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　内部障害 |
| 11 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　重症心身障害 |
| 12 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　知的障害　精神障害 |
| 13 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　高次脳機能障害　発達障害 |
| 14 | 障害別の基本理解と特性に応じた支援　難病 |
| 15 | まとめ |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 障害者福祉論 | 伊藤　晃 | ☑ | 理学療法士として病院・施設等において臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するにあたり、障害のとらえ方や障害者の生活実態とニーズについての理解を深め、これらを取り巻く法制度の展開についての体系的理解を図る。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 障害および障害のある人々に関わる本質的問題について幅広い観点から考察するとともに、社会・文化との関連において自己の「障害観」を見つめ直し、周囲の環境に配慮した生活支援を行うための根拠となる知識と具体的な生活支援の方法を習得する。 | 積極的に授業に臨むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書を基本に配布資料、スライド、映像教材を用いて授業を行う。適宜小テストを行い、理解度を確認する。実施した小テストは次回の授業時に解説し返却する。障害者福祉について理解を深めるためにグループワーク（＝アクティブラーニング）を行うため学生の積極的な参加を求める。 | 小テストを実施するので教科書、配布プリントを復習して理解しておくこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 授業への参加度　10%、小テスト　10%、定期試験　80%<br>定期試験、小テストは「知識・理解」及び「思考・判断」の観点から、授業への参加度は「関心・意欲・態度」から到達点を見る。 | 教科書：中央法規出版　最新介護福祉士養成講座 14「障害の理解」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　「障害」とは何か（グループワーク）、障害の概念・定義 |
| 2 | 障害者福祉の基本理念①　障害者福祉の歴史的展開・制度の発展過程 |
| 3 | 障害者福祉の基本理念② |
| 4 | 障害者福祉の現状と施策①　意思決定支援 |
| 5 | 障害者福祉の現状と施策②　障害者総合支援法 |
| 6 | 障害者福祉の現状と施策③　障害者差別解消法 |
| 7 | 障害者福祉の現状と施策④　障害者虐待防止法 |
| 8 | 障害者福祉の現状と施策⑤　就労の支援 |
| 9 | 障害者福祉の現状と施策⑥　難病に関連する法制度 |
| 10 | 障害者福祉の現状と施策⑦　就労の支援（1） |
| 11 | 障害者福祉の現状と施策⑧　就労の支援（2） |
| 12 | 障害者福祉の動向 |
| 13 | 障害者福祉に関連する連携と協働 |
| 14 | 家族への支援 |
| 15 | 障害者福祉の理念、法制度、支援についてのまとめ |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| こころとからだのしくみⅠ | 工藤　和子 | ☑ | 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護実践に必要な根拠となる心身の構造や機能について理解し、観察力・判断力の基盤となる基礎的な知識を学ぶ。さらに対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1．人体の基本的構造と生理機能が分かる。<br>2．こころとからだの関係が分かる。<br>3．身体の解剖生理を理解できる。<br>4．生命の維持・恒常性を理解することができる。 | 医学の専門用語が多く出てくるので、予習・復習を各自行ない、わからないことはそのままにしないこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書を中心に授業を行ない、適宜配布資料や人体モデルを用いて学習する。知識や基礎的概念の理解と定着のためのワーク（小テスト含む）を実施する。 | 毎次小テストを行うため、復習を行うこと。<br>医学の専門用語が多く出てくるので、予習を各自行なうこと。課題は必ず行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験　60%　小テスト10%　課題及び授業へ取り組む姿勢　30% | 教科書：中央法規出版　最新介護福祉士養成講座 11「ここからからだのしくみ」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　健康とは何か |
| 2 | 人間の欲求の基本的理解 |
| 3 | こころのしくみの基礎 |
| 4 | こころのしくみの基礎 |
| 5 | こころのしくみの基礎 |
| 6 | こころのしくみの基礎 |
| 7 | こころのしくみの基礎 |
| 8 | からだのしくみを理解する |
| 9 | からだのしくみを理解する |
| 10 | からだのしくみを理解する |
| 11 | からだのしくみを理解する |
| 12 | からだのしくみを理解する |
| 13 | からだのしくみを理解する |
| 14 | からだのしくみを理解する |
| 15 | まとめ |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| こころとからだのしくみⅡ | 工藤　和子 | ☑ 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を学習する。こころとからだのしくみⅠの知識をもとに、移動や身じたくの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1．生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみを理解することができる。<br>2．機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようになる。<br>3．生活支援技術の理解を深め、根拠ある日常生活支援技術が実践できる。 | 医学の専門用語が多く出てくるので、予習・復習を各自行ない、わからないことはそのままにしないこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書を中心に授業を行ない、適宜配布資料や人体モデルを用いて学習する。<br>演習を用い自分で実感しながら学習を深める。<br>知識や基礎的概念の理解と定着のためのワーク（小テスト含む）を実施する。 | 小テストを行うため、復習を行うこと。<br>医学の専門用語が多く出てくるので、予習を各自行なうこと。課題は必ず行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験　60%　小テスト10%　課題及び授業へ取り組む姿勢　30% | 教科書：中央法規出版 最新介護福祉士養成講座11「ここからからだのしくみ」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　生活支援に応じたこころとからだのしくみ |
| 2 | 移動に関連したこころとからだのしくみ　移動のしくみ |
| 3 | 移動に関連したこころとからだのしくみ　移動のしくみ |
| 4 | 移動に関連したこころとからだのしくみ　移動のしくみ |
| 5 | 移動に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が移動に及ぼす影響 |
| 6 | 移動に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が移動に及ぼす影響 |
| 7 | 移動に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応 |
| 8 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ　身じたくのしくみ |
| 9 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ　身じたくのしくみ |
| 10 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ　身じたくのしくみ |
| 11 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 |
| 12 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 |
| 13 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応 |
| 14 | 身じたくに関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応 |
| 15 | まとめ |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| こころとからだのしくみⅢ | 工藤　和子 | ☑ | 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を学習する。こころとからだのしくみⅠの知識をもとに、食事や入浴の生活を支える介護実践との関係を学ぶ。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1．生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみを理解することができる。<br>2．機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようになる。<br>3．生活支援技術の理解を深め、根拠ある日常生活支援技術が実践できる。 | 医学の専門用語が多く出てくるので、予習・復習を各自行ない、わからないことはそのままにしないこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書を中心に授業を行ない、適宜配布資料や人体モデルを用いて学習する。<br>演習を用い自分で実感しながら学習を深める。<br>知識や基礎的概念の理解と定着のためのワーク（小テスト含む）を実施する。 | 小テストを行うため、復習を行うこと。<br>医学の専門用語が多く出てくるので、予習を各自行なうこと。課題は必ず行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験　60%　小テスト10%　課題及び授業へ取り組む姿勢　30% | 教科書：中央法規出版　最新介護福祉士養成講座 11「ここからからだのしくみ」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　生活支援に応じたこころとからだのしくみ　食事・入浴について |
| 2 | 食事に関連したこころとからだのしくみ　食事のしくみ |
| 3 | 食事に関連したこころとからだのしくみ　食事のしくみ |
| 4 | 食事に関連したこころとからだのしくみ　食事のしくみ |
| 5 | 食事に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が食事に及ぼす影響 |
| 6 | 食事に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が食事に及ぼす影響 |
| 7 | 食事に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応 |
| 8 | 食事に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応 |
| 9 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　入浴・清潔保持のしくみ |
| 10 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　入浴・清潔保持のしくみ |
| 11 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 |
| 12 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 |
| 13 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応 |
| 14 | 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応 |
| 15 | まとめ |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| こころとからだのしくみⅣ | 工藤　和子 | ☑ 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を学習する。こころとからだのしくみⅠの知識をもとに、睡眠や排泄などの生活を支える介護実践との関係を学ぶ。また終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援を行うために必要な基礎的知識を学ぶ。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1．生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみを理解することができる。<br>2．機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できるようになる。<br>3．生活支援技術の理解を深め、根拠ある日常生活支援技術が実践できる。 | 医学の専門用語が多く出てくるので、予習・復習を各自行ない、わからないことはそのままにしないこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書を中心に授業を行ない、適宜配布資料や人体モデルを用いて学習する。<br>演習を用い自分で実感しながら学習を深める。<br>知識や基礎的概念の理解と定着のためのワーク（小テスト含む）を実施する。 | 小テストを行うため、復習を行うこと。<br>医学の専門用語が多く出てくるので、予習を各自行なうこと。課題は必ず行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験　60%　小テスト10%　課題及び授業へ取り組む姿勢　30% | 教科書：中央法規出版 最新介護福祉士養成講座11「ここからからだのしくみ」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　生活支援に応じたこころとからだのしくみ　排泄・睡眠・最終段階ケアについて |
| 2 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ　排泄のしくみ |
| 3 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ　排泄のしくみ |
| 4 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 |
| 5 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 |
| 6 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応 |
| 7 | 排泄に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応 |
| 8 | 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ　休息・睡眠のしくみ |
| 9 | 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 |
| 10 | 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ　心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 |
| 11 | 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ　変化の気づきと対応 |
| 12 | 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ　人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 |
| 13 | 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ　「死」に対するこころの理解 |
| 14 | 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ　終末期から危篤状態、死後のからだの理解 |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護の基本Ⅰ | 山下 科子 | ☑ | 看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 専門職としての介護の成り立ちを学ぶことで、介護福祉士に求められれる役割や機能を理解し、専門職として必要な知識や姿勢を習得するとともに、地域や災害時における介護福祉士の必要性や介護福祉士を支える職能団体のしくみやあり方について学習する。また、尊厳を保持した倫理的介護について学習し、介護福祉士に求められる専門職として必要な態度を養うことを目的とする。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 介護福祉士の歴史から基本理念や自立支援の考え方が説明できる。<br>2. 地域や施設・在宅の場、介護予防や看取り、災害時の場面や情報における介護福祉士の役割と機能を説明できる。<br>3. 社会福祉士及び介護福祉士法に関連する諸規定について説明できる。<br>4. 介護福祉士の専門性と倫理を理解し、専門職としての態度を形成できる。 | 介護についての基礎的な科目である。関連がある科目の教科書等の持参が必要なこともあるため、指示により準備すること。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書や資料を使い講義を行う。適宜グループワークを行う。 | 関連する科目も含め、予習・復習を行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験80%、レポート等の提出物や小テスト・授業へ取り組む姿勢20%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　介護福祉の基本となる理念　介護福祉士を取り巻く状況 |
| 2 | 介護福祉の基本となる理念　介護福祉の歴史① |
| 3 | 介護福祉の基本となる理念　介護福祉の歴史② |
| 4 | 介護福祉の基本となる理念　介護福祉の基本理念① |
| 5 | 介護福祉の基本となる理念　介護福祉の基本理念② |
| 6 | 介護福祉士の役割と機能　社会福祉士及び介護福祉士法 |
| 7 | 介護福祉士の役割と機能　介護福祉士の活動の場と役割① |
| 8 | 介護福祉士の役割と機能　介護福祉士の活動の場と役割② |
| 9 | 介護福祉士の役割と機能　介護福祉士に求められる役割とその養成 |
| 10 | 介護福祉士の役割と機能　介護福祉士を支える団体 |
| 11 | 介護福祉士の倫理① |
| 12 | 介護福祉士の倫理② |
| 13 | 介護福祉士の倫理　日本介護福祉士会の倫理綱領① |
| 14 | 介護福祉士の倫理　日本介護福祉士会の倫理綱領② |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 介護の基本Ⅱ | 伊藤　みどり | ☑ 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護を必要とする人の生活を理解し個別性に対応するために、生活の多様性や社会とのかかわりについて学ぶ。また、多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する内容とする。対人支援を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を分析し、解決するための基礎的な能力を身に着け介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 介護を必要とする人の生活について説明できる。<br>2. 多職種が連携する必要性や多職種の役割について説明できる。<br>3. ICFの視点に基づくアセスメントについて説明できる。<br>4. 個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防について説明できる。 | 介護についての基礎的な科目である。関連がある科目の教科書等の持参が必要なこともあるため、指示により準備すること。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書や資料を使い講義を行う。適宜グループワークを行う。 | 関連する科目も含め、予習・復習を行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験80%、レポート等の提出物や小テスト・授業への参加姿勢20%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（第2版）』『最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　介護福祉を必要とする人の理解　私たちの生活の理解 |
| 2 | 介護福祉を必要とする人の理解　介護福祉を必要とする人たちの暮らし① |
| 3 | 介護福祉を必要とする人の理解　介護福祉を必要とする人たちの暮らし② |
| 4 | 介護福祉を必要とする人の理解　「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 |
| 5 | 介護福祉を必要とする人の理解　生活のしづらさの理解とその支援 |
| 6 | 協働する多職種の機能と役割　多職種連携・協働の必要性① |
| 7 | 協働する多職種の機能と役割　多職種連携・協働の必要性② |
| 8 | 協働する多職種の機能と役割　多職種連携・協働に求められる基本的な能力 |
| 9 | 協働する多職種の機能と役割　保健・医療・福祉職の役割と機能 |
| 10 | 協働する多職種の機能と役割　多職種連携・協働の実際 |
| 11 | 自立に向けた介護　介護福祉における自立支援① |
| 12 | 自立に向けた介護　介護福祉における自立支援② |
| 13 | 自立に向けた介護　ICFの考え方① |
| 14 | 自立に向けた介護　ICFの考え方② |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護の基本Ⅲ | 村松　秀明 | ☑ | 理学療法士として病院・施設等において臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 高齢者および障害者、疾病や外傷により生じる生活機能の障害特徴を理解し、利用者の自立支援とリハビリテーションについて学ぶ。また、介護過程を展開する上で根拠となる知識を身に着けることを目的とする。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. リハビリテーションとは何かを説明できる。<br>2. 自立支援とリハビリテーションとの関係を理解できる。<br>3. 高齢者や疾病・障害から生じる生活上の困難さを説明できる。<br>4. 自立に向けた安全・安楽な支援のための技術を習得できる。 | ・積極的に授業参加をすること<br>・実技時は身だしなみを整え、学校指定の実習着で参加すること |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 1. パワーポイントと配布資料・教科書を使用し、講義・技術を行う。<br>2. 実技ではデモンストレーション後、学生同士で実践する。 | 「こころとからだのしくみ」「障害の理解」「介護の基本」「生活支援技術」などの内容は互いに関連しており、他科目での学習内容も含まれている。講義資料を基に復習及び整理をして、教科書を読み込む必要がある。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験80%　出席状況及び授業に取り組む姿勢20%　総合的に判断し、60点以上を合格とする。 | 書名：最新介護福祉士養成講座（第2版）「介護の基本Ⅰ」「生活支援技術Ⅰ」「障害の理解」中央法規出版　適宜参考資料配布 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　リハビリテーション ＩＬ ノーマライゼーション |
| 2 | インクルージョン ＡＤＬ ＱＯＬ ユニバーサルデザイン |
| 3 | 健康と障害の基本的理解 疾病と障害の分類（ICD　ICIDH ICF） |
| 4 | リハビリテーションの諸段階　体系　領域 |
| 5 | 障害の過程（評価　ADL　IADL） |
| 6 | リハビリテーション体系 リハビリテーション介護 |
| 7 | 廃用症候群の理解 |
| 8 | 関節可動域運動 |
| 9 | 骨折、骨関節疾患の理解とリハビリテーション |
| 10 | 脳血管障害の理解とリハビリテーション① |
| 11 | 脳血管障害の理解とリハビリテーション② |
| 12 | パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症の理解とリハビリテーション |
| 13 | 動作介助の基本（リハビリテーションの視点） |
| 14 | ポジショニングの基礎 |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護の基本Ⅳ | 伊藤　みどり | ☑ | 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護サービスや地域連携、フォーマル・インフォーマルな支援等の介護を必要とする人の生活を支えるしくみについて学ぶ。地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 高齢者・障害者の生活を支えるフォーマルサービスについて説明できる。<br>2. 高齢者・障害者の生活を支えるインフォーマルサービスについて説明できる。<br>3. 地域連携の意義・目的、地域福祉にかかわる組織や団体について説明できる。 | 介護についての基礎的な科目である。関連がある科目の教科書等の持参が必要なこともあるため、指示により準備すること。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書や資料を使い講義を行う。適宜グループワークを行う。 | 関連する科目も含め、予習・復習を行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験80%、レポート等の提出物や小テスト・授業への参加姿勢20%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ |
| 2 | 地域共生社会 |
| 3 | 地域包括ケアシステム |
| 4 | 高齢者のためのフォーマルサービス① |
| 5 | 高齢者のためのフォーマルサービス② |
| 6 | 障害者のためのフォーマルサービス① |
| 7 | 障害者のためのフォーマルサービス② |
| 8 | 生活を支えるインフォーマルサービス① |
| 9 | 生活を支えるインフォーマルサービス② |
| 10 | 生活を支えるインフォーマルサービス③ |
| 11 | 地域連携①　地域連携の意義と目的 |
| 12 | 地域連携②　地域連携にかかわる機関の理解 |
| 13 | 地域連携③　利用者を取り巻く地域連携の実際 |
| 14 | 地域連携④　利用者を取り巻く地域連携の実際 |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護の基本Ⅴ | 芝田 由佳 | ☑ | 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護ロボットを含め福祉用具を活用するその意義や目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する基礎的な知識・技術を習得する。また、住まいの多様性を理解するとともに、居住環境の整備について基礎的な技術を学ぶ。尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識を習得することを目的とする。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 自立に向けた居住環境の整備について理解できる。<br>2. 福祉用具と意義の活用について説明できる。 | 介護についての基礎的な科目である。関連がある科目の教科書等の持参が必要なこともあるため、指示により準備すること。 |

| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
|---|---|
| 教科書や資料を使い講義を行う。適宜グループワークを行う。 | 関連する科目も含め、予習・復習を行うこと。 |

| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
|---|---|
| 定期試験80%、レポート等の提出物や小テスト・授業への参加姿勢20%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 住まいの役割と機能① 家族と生活空間 住まいと地域 |
| 2 | 住まいの役割と機能② 人と空間 加齢と生活空間 |
| 3 | 快適な室内環境① 生活環境と室内環境 室内気候の調整 |
| 4 | 快適な室内環境② 明るさの調整 音環境の調整 住まいの維持・管理 |
| 5 | 安全に暮らすための生活環境① 日常安全 |
| 6 | 安全に暮らすための生活環境② 災害に対する備え |
| 7 | 居住環境の整備における多職種との連携① 居住環境の整備における多職種連携の必要性 |
| 8 | 居住環境の整備における多職種との連携② 他職種の役割と介護福祉職との連携 多職種連携の実際 |
| 9 | 生活における福祉用具の重要性① 福祉用具とは 公的制度における福祉用具の給付の変遷 |
| 10 | 生活における福祉用具の重要性② 福祉用具を使用する意義 これからの福祉用具の可能性 |
| 11 | 福祉用具の種類① 福祉用具の分類 |
| 12 | 福祉用具の種類② 公的制度における福祉用具サービス |
| 13 | 適切な福祉用具を選ぶための視点① 解決手段 リスクとリスクマネジメント 提供のプロセス |
| 14 | 適切な福祉用具を選ぶための視点② アセスメントの視点 適合・モニタリングの視点 |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 介護の基本Ⅵ | 佐藤　はるみ | ☑ 看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基本的な知識や事故への対応を理解する内容とする。また、介護従事者自身が心身ともに健康に介護をするための健康管理や労働環境の管理について理解する内容とする。介護福祉の基本となる理念を理解した上で、介護福祉の専門職としての能力と態度を養うことを目的とする。 | 2年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 介護における安全の確保とリスクマネジメントについて説明できる。<br>2. 介護従事者の安全について説明できる。 | 介護についての基礎的な科目である。関連がある科目の教科書等の持参が必要なこともあるため、指示により準備すること。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書や資料を使い講義を行う。適宜グループワークを行う。 | 関連する科目も含め、予習・復習を行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験80%、レポート等の提出物や小テスト・授業への参加姿勢20%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座3 介護の基本Ⅰ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 介護における安全の確保①　介護福祉士の責務と安全の確保 |
| 2 | 介護における安全の確保②　セーフティマネジメント　組織風土の醸成　尊厳の保持と安全な暮らし |
| 3 | リスクマネジメントとは① |
| 4 | リスクマネジメントとは② |
| 5 | リスクマネジメントとは③ |
| 6 | 感染症対策① |
| 7 | 感染症対策② |
| 8 | 健康管理の意義と目的①　働く人の健康や生活を守る法制度　介護労働の特性と健康問題 |
| 9 | 健康管理の意義と目的②　介護に従事する人の健康問題　健康に働くための健康管理 |
| 10 | こころの健康管理①　介護従事者にとってのこころの健康問題　ストレスとこころの健康 |
| 11 | こころの健康管理②　こころの病気　職場で取り組むこころの健康管理 |
| 12 | 身体の健康管理　介護従事者の身体の健康障害の現状 |
| 13 | 労働環境の整備①　労働環境について学ぶ意義　労働条件がかかわる労働環境　介護従事者の労働災害 |
| 14 | 労働環境の整備②　熱中症と労働環境　けがと労働環境　けがを予防する |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| コミュニケーション技術Ⅰ | 清水　克重 | ☑ | 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護を必要とする人の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、演習を通して、利用者や利用者家族とのコミュニケーション能力を身につけ、さまざまなコミュニケーション場面に応用できる能力を養う内容とする。対象者との支援関係の構築するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1. 介護を必要とする人とのコミュニケーションにおける基本的な姿勢と技法が理解できる。<br>2. 介護における家族とのコミュニケーションについて考え理解できる。 | 「人間関係とコミュニケーション」の授業と深い関係をもつ科目である。ロールプレイやグループワーク等の参加型授業を行うため、積極的な態度で臨むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書や資料を用いて授業を行う。テーマにより、個人ワーク、ロールプレイ、グループワークなどを行う。 | 日頃からコミュニケーションを図ることを大切にし、さまざまな人と意識的に関わること。予習・復習を行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験70%、授業への参加姿勢や課題レポート等30%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 介護におけるコミュニケーションの基本　意義と目的　展開過程　果たす役割 |
| 2 | 介護におけるコミュニケーションの基本　職務とコミュニケーション　支援の対象 |
| 3 | 介護におけるコミュニケーションの基本　援助関係の特徴　介護における援助関係を意識したコミュニケーション |
| 4 | コミュニケーションの基本技術　傾聴　受容　共感 |
| 5 | コミュニケーションの基本技術　コミュニケーションにおける距離 |
| 6 | コミュニケーションの基本技術　言語コミュニケーション |
| 7 | コミュニケーションの基本技術　非言語・準言語コミュニケーション |
| 8 | コミュニケーションの基本技術　目的別のコミュニケーション　動機づけ　ものの見方に変化を生み出す技術 |
| 9 | コミュニケーションの基本技術　意思決定を支援するためのコミュニケーション |
| 10 | コミュニケーションの基本技術　集団におけるコミュニケーション技術 |
| 11 | コミュニケーションの基本技術　集団におけるコミュニケーション技術 |
| 12 | 家族とのコミュニケーション　家族との関係づくり |
| 13 | 家族とのコミュニケーション　家族への助言・指導・調整 |
| 14 | 家族とのコミュニケーション　家族関係と介護ストレスへの対応 |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| コミュニケーション技術Ⅱ | 髙山 恭平 | ☑ | 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| コミュニケーション機能の障害を抱える利用者の実態、原因や障害症状、生活障害を学び、障害に応じたコミュニケーションの実践理論を学び技術を習得する。また、対象者との支援関係やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法について学ぶ。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1.利用者の障害の特性に応じたコミュニケーションを理解し説明できる。<br>2.介護におけるチームのコミュニケーションの意義や技法を習得し活用できる。 | 「人間関係とコミュニケーション」「コミュニケーション技術Ⅰ」「障害の理解」との関連が深いため復習をして臨むこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書や資料を用いて授業を行う。テーマにより、個人ワーク、ロールプレイ、グループワークなどを行う。 | 関連科目も含め、予習・復習を行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験70%、授業への参加姿勢や課題レポート等30%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 対象者の特性に応じたコミュニケーション　コミュニケーション障害への対応の基本 |
| 2 | さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援　視覚障害 |
| 3 | さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援　聴覚障害 |
| 4 | さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援　構音障害　失語症 |
| 5 | さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援　認知症　うつ・抑うつ |
| 6 | さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援　統合失調症 |
| 7 | さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援　知的障害　発達障害 |
| 8 | さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援　高次脳機能障害 |
| 9 | さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援　重症心身障害のある人への支援 |
| 10 | 介護におけるチームのコミュニケーション　意義・目的　多職種協働　チームのコミュニケーション技術 |
| 11 | 介護におけるチームのコミュニケーション　報告・連絡・相談の意義　報告・連絡・相談の技術 |
| 12 | 介護におけるチームのコミュニケーション　記録の技術 |
| 13 | 介護におけるチームのコミュニケーション　会議・議事進行・説明の技術　事例検討に関する技術 |
| 14 | 介護におけるチームのコミュニケーション　情報の活用と管理のための技術 |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 生活支援技術Ⅰ | 髙山　恭平 | ☑ 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/60時間 | 30回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。「生活支援技術Ⅰ」では、介護福祉士が行う生活支援の意義と目的、利用者の生活を多角的に支えるためのチームアプローチのあり方を学ぶ。また、休息・睡眠環境を整えるためのベッドメイキングや生活行為の基本となる移動についての一連の流れを理解するとともに、基本原則に則った食事の介護、利用者の状況に応じた食事の介護、誤嚥予防のため支援、食後の口腔ケアについて学ぶ。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・実習室の使い方や生活支援を行うための基本的な態度が理解できる。<br>・介護福祉士が行う生活支援の意義と目的について理解できる。<br>・休息睡眠環境を整えるためのベッドメイキングが習得できる。<br>・自立に向けた移動・移乗における基本的な介護技術が習得できる。<br>・自立に向けた食事の介護における基本的な技術が習得できる。 | 実習室の使い方・ルールを守り、指定の実習着で授業に臨むこと。実技演習が中心となるため体調管理に努めること。「こころとからだのしくみ」と常に連動し、介護技術の根拠を理解した上で取り組むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| ・実習室の使い方や生活支援を行うための基本的な態度が理解できる。<br>・介護福祉士が行う生活支援の意義と目的について理解できる。<br>・休息睡眠環境を整えるためのベッドメイキングが習得できる。<br>・自立に向けた移動・移乗における基本的な介護技術が習得できる。<br>・自立に向けた食事の介護における基本的な技術が習得できる。 | ARアプリを活用し、予習・復習を行うこと。実技確認の課題を理解し、時間外において繰り返し技術の復習を行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験50%、技術確認の達成度40%、授業に取り組む姿勢等10%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ（第2版）』『最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 生活支援の基本的な考え方 |
| 2 | 生活支援と介護過程　　生活支援とチームアプローチ |
| 3 | 生活支援と介護過程　　生活支援とチームアプローチ |
| 4 | 休息・睡眠環境を整える　ベッドメイキング |
| 5 | 休息・睡眠環境を整える　ベッドメイキング |
| 6 | 休息・睡眠環境を整える　ベッドメイキング |
| 7 | 休息・睡眠環境を整える　ベッドメイキング実技確認 |
| 8 | 自立に向けた移動の介護　自立した移動とは |
| 9 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　移動・移乗の基本的理解 |
| 10 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　起居動作 |
| 11 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　起居動作 |
| 12 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　安楽な姿勢・体位を保持する介助 |
| 13 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　安楽な姿勢・体位を保持する介助 |
| 14 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　歩行の介助 |
| 15 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　歩行の介助 |
| 16 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　車いすの介助 |
| 17 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　車いすの介助 |
| 18 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　車いすの介助 |
| 19 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　実技確認 |
| 20 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　実技確認 |
| 21 | 自立に向けた移動・移乗の介護　　移乗・移動のための道具・用具　多職種連携 |
| 22 | 自立に向けた食事の介護　　自立した食事とは |
| 23 | 自立に向けた食事の介護　　介護の基本原則にのっとった食事の介護 |
| 24 | 自立に向けた食事の介護　　利用者の状態に応じた食事の介護 |
| 25 | 自立に向けた食事の介護　　誤嚥予防のための支援 |
| 26 | 自立に向けた食事の介護　　食後の口腔ケア |
| 27 | 自立に向けた食事の介護　　食後の口腔ケア |
| 28 | 自立に向けた食事の介護　　多職種との連携 |
| 29 | 自立に向けた食事の介護　　実技確認 |
| 30 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活支援技術Ⅱ | 髙山恭平　西村俊彦 | ☑ | 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/60時間 | 30回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。「生活支援技術Ⅱ」では、自立した身じたくの一連の流れを理解し、利用者の状況に応じた介助の方法を学ぶとともに、自立に向けた入浴・清潔保持の一連の流れを理解し、具体的な入浴と清潔保持の介助方法を学ぶ。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・自立した身じたくにおける一連の流れを理解し、基本的な身じたくの介護技術が習得できる。<br>・自立した入浴・清潔保持における一連の流れを理解し、基本的な入浴と清潔保持の介護方法を習得できる。 | 実習室の使い方・ルールを守り、指定の実習着で授業に臨むこと。実技演習が中心となるため体調管理に努めること。「こころとからだのしくみ」と常に連動し、介護技術の根拠を理解した上で取り組むこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書や資料で支援の根拠を確認しながら演習を行う。演習は、教員が見本を示し、その後学生同士で行う。 | ARアプリを活用し、予習・復習を行うこと。実技確認の課題を理解し、時間外において繰り返し技術の復習を行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験50%、技術確認の達成度40%、授業に取り組む姿勢等10%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 自立に向けた身じたくの介護　自立した身じたくとは　身じたくの一連の流れ　介護福祉職がすべきこと |
| 2 | 自立に向けた身じたくの介護　洗顔の介助　整髪の介助　髭の手入れの介助 |
| 3 | 自立に向けた身じたくの介護　爪の手入れの介助　耳の清潔の介助　化粧の介助 |
| 4 | 自立に向けた身じたくの介護　口腔ケア① |
| 5 | 自立に向けた身じたくの介護　口腔ケア② |
| 6 | 自立に向けた身じたくの介護　衣類の着脱の介助① |
| 7 | 自立に向けた身じたくの介護　衣類の着脱の介助② |
| 8 | 自立に向けた身じたくの介護　衣類の着脱の介助③ |
| 9 | 自立に向けた身じたくの介護　衣類の着脱の介助④ |
| 10 | 自立に向けた身じたくの介護　衣類の着脱の介助⑤ |
| 11 | 自立に向けた身じたくの介護　技術の確認 |
| 12 | 自立に向けた身じたくの介護　技術の確認 |
| 13 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　自立した入浴・清潔保持とは　入浴の一連の流れ　介護福祉職がすべきこと |
| 14 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　入浴の可否と清潔に関する方法の選択　入浴の準備 |
| 15 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　個浴での介助方法① |
| 16 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　個浴での介助方法② |
| 17 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　手浴① |
| 18 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　足浴① |
| 19 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　手浴② |
| 20 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　足浴② |
| 21 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　全身清拭① |
| 22 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　全身清拭② |
| 23 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　洗髪① |
| 24 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　洗髪② |
| 25 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　特殊浴槽（機械浴）を使用しての入浴① |
| 26 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　特殊浴槽（機械浴）を使用しての入浴② |
| 27 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　入浴・清潔保持のための道具・用具　多職種との連携 |
| 28 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　技術の確認 |
| 29 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護　技術の確認 |
| 30 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 生活支援技術Ⅲ | 髙山恭平　西村俊彦 | ☑ | 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/60時間 | 30回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。「生活支援技術Ⅲ」では、自立に向けた排泄の介護の一連の流れを理解し、さまざまな排泄の介助方法を学ぶ。また、休息・睡眠の重要性および睡眠環境を整える方法について学ぶとともに、人生の最終段階におけるケアの意味や死を迎える人の介護、亡くなったあとの介護について学ぶ。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・自立に向けた排泄の介護のための基本的な介助方法が習得できる。<br>・休息と睡眠の重要性を理解し、睡眠環境を整えることができる。<br>・人生の最終段階におけるケアの意味を理解できる。 | 実習室の使い方・ルールを守り、指定の実習着で授業に臨むこと。実技演習が中心となるため体調管理に努めること。「こころとからだのしくみ」と常に連動し、介護技術の根拠を理解した上で取り組むこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書や資料で支援の根拠を確認しながら演習を行う。演習は、教員が見本を示し、その後学生同士で行う。 | ARアプリを活用し、予習・復習を行うこと。実技確認の課題を理解し、時間外において繰り返し技術の復習を行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験50%、技術確認の達成度40%、授業に取り組む姿勢等10%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 自立に向けた排泄の介護　自立した排泄とは　一連の流れ　介護福祉職がすべきこと　排泄方法の選択 |
| 2 | 自立に向けた排泄の介護　トイレでの排泄の介助方法① |
| 3 | 自立に向けた排泄の介護　トイレでの排泄の介助方法② |
| 4 | 自立に向けた排泄の介護　ポータブルトイレでの排泄の介助方法 |
| 5 | 自立に向けた排泄の介護　立位でのパッド交換の介助 |
| 6 | 自立に向けた排泄の介護　尿器を使用した排泄の介助 |
| 7 | 自立に向けた排泄の介護　差し込み便器を使用した排泄の介助 |
| 8 | 自立に向けた排泄の介護　陰部洗浄① |
| 9 | 自立に向けた排泄の介護　陰部洗浄② |
| 10 | 自立に向けた排泄の介護　おむつでの排泄の介助① |
| 11 | 自立に向けた排泄の介護　おむつでの排泄の介助② |
| 12 | 自立に向けた排泄の介護　おむつでの排泄の介助④ |
| 13 | 自立に向けた排泄の介護　おむつでの排泄の介助⑤ |
| 14 | 自立に向けた排泄の介護　頻尿・尿失禁・便秘・下痢・便失禁への対応　自己導尿の介助 |
| 15 | 自立に向けた排泄の介護　座薬挿入の介助　浣腸　ストーマがある場合の介助　多職種連携 |
| 16 | 自立に向けた排泄の介護　技術の確認 |
| 17 | 自立に向けた排泄の介護　技術の確認 |
| 18 | 休息・睡眠の介護　休息・睡眠とは　休息・睡眠の効果　快適な睡眠の一連の流れ　安眠を阻害する要因 |
| 19 | 休息・睡眠の介護　介護福祉職がすべきこと　室内環境の調整 |
| 20 | 休息・睡眠の介護　ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合） |
| 21 | 休息・睡眠の介護　ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合） |
| 22 | 休息・睡眠の介護　ベッドメイキング（ベッドに臥床している人がいる場合） |
| 23 | 休息・睡眠の介護　睡眠障害とその支援　多職種連携 |
| 24 | 人生の最終段階における介護　意義と介護の役割　人生の最終段階におけるケアの意味　アセスメントの視点 |
| 25 | 人生の最終段階における介護　人生の最終段階におけるケアの意味　アセスメントの視点 |
| 26 | 人生の最終段階における介護　死をむかえる人の介護 |
| 27 | 人生の最終段階における介護　死をむかえた人の介護 |
| 28 | 人生の最終段階における介護　亡くなったあとの介護 |
| 29 | 人生の最終段階における介護　多職種連携 |
| 30 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 生活支援技術Ⅳ | 髙山 恭平 | ☑ 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/60時間 | 30回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。「生活支援技術Ⅳ」では、家事支援では、調理・洗濯・裁縫などの具体的な家事支援における介護技術を学ぶ。また、応急手当の知識と技術、災害時における介護福祉士の役割と生活支援について学ぶ。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・自立に向けた家事の介護について理解し、調理や洗濯、裁縫の基本的な介護技術ができる。<br>・基本的な応急手当の知識を技術が習得できる。<br>・災害時における生活支援および災害時の介護福祉士の役割について理解できる。 | 実習室の使い方・ルールを守り、指定の実習着で授業に臨むこと。実技演習が中心となるため体調管理に努めること。「こころとからだのしくみ」と常に連動し、介護技術の根拠を理解した上で取り組むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書や資料を用いて講義または演習を行う。家事支援については実際に行うための準備として計画を個人またはグループで立案し、実施に向けた準備を行う。 | ARアプリを活用し、予習・復習を行うこと。実技確認の課題を理解し、時間外において繰り返し技術の復習を行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験60%、計画書やレポート等の提出物・演習の取り組み姿勢40%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ（第2版）』『最新 介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 応急手当の知識と技術　想定される事故と予防の視点　応急手当とは |
| 2 | 応急手当の知識と技術　応急手当と実際① |
| 3 | 応急手当の知識と技術　応急手当と実際② |
| 4 | 自立に向けた家事の介護　自立生活を支える家事　一連の流れ |
| 5 | 自立に向けた家事の介護　調理の介護　食事バランスガイド |
| 6 | 自立に向けた家事の介護　調理の介護　調理の介護の基本知識 |
| 7 | 自立に向けた家事の介護　調理の介護　調理の準備 |
| 8 | 自立に向けた家事の介護　調理の介護　調理の準備 |
| 9 | 自立に向けた家事の介護　調理の介護　調理の実際 |
| 10 | 自立に向けた家事の介護　調理の介護　調理の実際 |
| 11 | 自立に向けた家事の介護　調理の介護　調理の実際 |
| 12 | 自立に向けた家事の介護　調理の介護　調理の実際 |
| 13 | 自立に向けた家事の介護　洗濯の介護 |
| 14 | 自立に向けた家事の介護　洗濯の介護 |
| 15 | 自立に向けた家事の介護　そうじ・ごみ捨ての介護 |
| 16 | 自立に向けた家事の介護　そうじ・ごみ捨ての介護 |
| 17 | 自立に向けた家事の介護　裁縫（衣類の補修）の介護 |
| 18 | 自立に向けた家事の介護　裁縫（衣類の補修）の介護 |
| 19 | 自立に向けた家事の介護　裁縫（衣類の補修）の介護 |
| 20 | 自立に向けた家事の介護　裁縫（衣類の補修）の介護 |
| 21 | 自立に向けた家事の介護　衣類・寝具の衛生管理の介護 |
| 22 | 自立に向けた家事の介護　衣類・寝具の衛生管理の介護 |
| 23 | 自立に向けた家事の介護　家庭経営、家計の管理の介護 |
| 24 | 自立に向けた家事の介護　家庭経営、家計の管理の介護 |
| 25 | 自立に向けた家事の介護　多職種連携 |
| 26 | 災害時における生活支援　災害時における介護福祉職の役割 |
| 27 | 災害時における生活支援　災害時における介護福祉職の役割 |
| 28 | 災害時における生活支援　災害時における生活支援の実際 |
| 29 | 災害時における生活支援　災害時における生活支援の実際 |
| 30 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 生活支援技術Ⅴ | 伊藤 美智世 | ☑ 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/30時間 | 15コマ |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。「生活支援技術Ⅴ」は、肢体不自由、視覚障害、言語・聴覚障害、重複障害、さまざまな内部障害、重症心身障害に応じた介護について学ぶ。①障害や持病のある人について医学的・心理的側面から理解すること、②生活上の困りごとを理解すること、③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・障害や疾病のある人について、医学的・心理的な側面からの理解ができる。<br>・障害や疾病のある人の生活上の困りごとを理解できる。<br>・障害や疾病のある人への生活支援において、介護福祉士が果たす役割を理解することができる。 | 領域「こころとからだのしくみ」で学んだ内容を根拠として展開される。特に「障害の理解」との関連が深いため、復習をして臨むこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書や資料を用いて講義を行う。また、適宜演習を行う。 | 関連科目を含め、予習・復習を行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験80%、授業に取り組む姿勢等20%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは |
| 2 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　肢体不自由に応じた介護 |
| 3 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　肢体不自由に応じた介護 |
| 4 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　視覚障害に応じた介護 |
| 5 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　視覚障害に応じた介護 |
| 6 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　聴覚・言語障害に応じた介護 |
| 7 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　重複障害〈盲ろう〉に応じた介護 |
| 8 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　内部障害　心臓機能障害に応じた介護 |
| 9 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　内部障害　腎臓機能障害に応じた介護 |
| 10 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　内部障害　膀胱・直腸機能障害に応じた介護 |
| 11 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　内部障害　小腸機能障害に応じた介護 |
| 12 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　内部障害　HIVによる免疫機能障害に応じた介護 |
| 13 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　内部障害　肝臓機能障害に応じた介護 |
| 14 | 障害に応じた生活支援技術Ⅰ　重症心身障害に応じた介護 |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 生活支援技術Ⅵ | 伊藤　美智世 | ☑ 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/30時間 | 15コマ |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるように、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得することを目的とする。「生活支援技術Ⅵ」では、知的障害、精神障害、高次脳機能障害、発達障害、難病に応じた介護について学ぶ。①障害や疾病にのある人について、医学的・心理的側面から理解すること、②生活上の困りごとを理解すること、③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・障害や疾病のある人について、医学的・心理的な側面からの理解ができる。<br>・障害や疾病のある人への生活上の困りごとを理解できる。<br>・障害や疾病のある人への生活支援において、介護福祉士が果たす役割を理解することができる。 | 領域「こころとからだのしくみ」で学んだ内容を根拠として展開される。特に「障害の理解」との関連が深いため、復習をして臨むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書や資料を用いて講義を行う。また、適宜演習を行う。 | 関連科目を含め、予習・復習を行うこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験80%、授業に取り組む姿勢等20%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　知的障害に応じた介護 |
| 2 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　知的障害に応じた介護 |
| 3 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　精神障害に応じた介護 |
| 4 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　精神障害に応じた介護 |
| 5 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　高次脳機能障害に応じた介護 |
| 6 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　高次脳機能障害に応じた介護 |
| 7 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　発達障害に応じた介護 |
| 8 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　難病　筋萎縮性側索硬化症（ALS)に応じた介護 |
| 9 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　難病　筋萎縮性側索硬化症（ALS)に応じた介護 |
| 10 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　難病　パーキンソン病に応じた介護 |
| 11 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　難病　パーキンソン病に応じた介護 |
| 12 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　難病　悪性関節リウマチに応じた介護 |
| 13 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　難病　悪性関節リウマチに応じた介護 |
| 14 | 障害に応じた生活支援技術Ⅱ　難病　筋ジストロフィーに応じた介護 |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護過程Ⅰ | 芝田　由佳 | ☑ | 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 「介護過程Ⅰ」では、「介護過程とは何か」の理解を深め、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題を抽出し、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を学ぶ。他科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程のしくみや目的を理解し、基本的な展開方法を習得することを目的とする。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・介護過程の意義と目的について説明できる。<br>・基本的な展開方法を理解できる。<br>・介護過程と生活支援の関連について説明できる。 | ICFの考え方について理解し、授業に臨むこと。個別ワークやグループワークでは、積極的な姿勢で臨むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書や資料を使用し授業を展開する。適宜、個人ワークやグループワークを行う。 | 他科目で学習した内容も含め復習をすること。提出課題等は各自で行い、提出期限を守ること。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験60%、小テスト・提出物・授業への参加状況40%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座9 介護過程（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　介護過程とは１　介護過程の意義・目的 |
| 2 | 介護過程とは２　介護過程の全体像 |
| 3 | 介護過程とは３　事例検討・事例研究の必要性　倫理的な配慮 |
| 4 | 介護過程の理解１　介護過程の展開（アセスメント） |
| 5 | 介護過程の理解２　介護過程の展開（介護計画の立案・介護の実施・評価） |
| 6 | 介護過程の理解３　アセスメント（情報収集の意義　アセスメントと情報収集） |
| 7 | 介護過程の理解４　アセスメント（情報収集の方法　ICFモデルの活用） |
| 8 | 介護過程の理解５　アセスメント（解釈・関連づけ・統合化　必要な姿勢　視点） |
| 9 | 介護過程の理解６　アセスメント（解釈・関連づけ・統合化のトレーニング①） |
| 10 | 介護過程の理解７　アセスメント（解釈・関連づけ・統合化のトレーニング②） |
| 11 | 介護過程の理解８　アセスメント（生活課題の明確化） |
| 12 | 介護過程の理解９　介護計画の立案（介護計画とは） |
| 13 | 介護過程の理解10　介護計画の立案（実施における留意点　実施の記録） |
| 14 | 介護過程の理解11　介護の実施　評価（意義と目的　内容と方法） |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 介護過程Ⅱ | 芝田　由佳 | ☑ 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/60時間 | 30回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 「介護過程Ⅱ」では、「介護過程Ⅰ」の内容をもとに利用者の状態や状況に応じた介護過程の実際を事例を通して学ぶ。また介護実習との関連を視野に入れ、本人の望む生活の実現に向けて、アセスメントを行い、根拠に基づく介護実践のための思考過程を習得する。他の関連科目で学んだ知識や技術を実際の利用者支援に向けて、どのように活かしていくのかを考えることを目的とする。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・アセスメント（情報収集、解釈・関連づけ・統合化、課題の明確化）について説明できる。<br>・把握した情報を適切に言語化できる。<br>・個別事例を通して、利用者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができる。 | 個別ワークやグループワークが多いため、積極的に臨むこと。グループワークでは、個々が意見を出しやすい雰囲気を意図的に創ること。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書や資料を使用し授業を展開する。適宜、個人ワークやグループワークを行う。 | 他科目で学習した内容も含め復習をすること。提出課題等は各自で行い、提出期限を守ること。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験40%、課題の提出40%、授業への参加状況20%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座9 介護過程（第2版）』中央法規出版<br>「実習の手引き」信州介護福祉専門学校 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　介護過程の理解１　アセスメント |
| 2 | 介護過程の理解２　介護計画の立案 |
| 3 | 介護過程の理解３　介護の実施　評価 |
| 4 | 介護過程の実践的展開　事例１ |
| 5 | 介護過程の実践的展開　事例１ |
| 6 | 介護過程の実践的展開　事例１　（グループワーク） |
| 7 | 介護過程の実践的展開　事例１　（グループワーク） |
| 8 | 介護過程の実践的展開　事例１ |
| 9 | 介護過程の実践的展開　事例２ |
| 10 | 介護過程の実践的展開　事例２ |
| 11 | 介護過程の実践的展開　事例２　（グループワーク） |
| 12 | 介護過程の実践的展開　事例２　（グループワーク） |
| 13 | 介護過程の実践的展開　事例２ |
| 14 | 介護過程の実践的展開　事例３　（介護実習Ⅱ事例振り返り） |
| 15 | 介護過程の実践的展開　事例３　（介護実習Ⅱ事例振り返り） |
| 16 | 介護過程の実践的展開　事例３　（介護実習Ⅱ事例振り返り） |
| 17 | 介護過程の実践的展開　事例３　（介護実習Ⅱ事例　介護計画立案） |
| 18 | 介護過程の実践的展開　事例３　（介護実習Ⅱ事例　介護計画立案） |
| 19 | 介護過程の実践的展開　事例３　（介護実習Ⅱ事例　介護計画実施・評価） |
| 20 | 介護過程の実践的展開　事例３　（介護実習Ⅱ事例　介護計画実施・評価） |
| 21 | 介護過程の実践的展開　事例４ |
| 22 | 介護過程の実践的展開　事例４ |
| 23 | 介護過程の実践的展開　事例４　（グループワーク） |
| 24 | 介護過程の実践的展開　事例４　（グループワーク） |
| 25 | 介護過程の実践的展開　事例４ |
| 26 | 介護過程の実践的展開　事例５ |
| 27 | 介護過程の実践的展開　事例５ |
| 28 | 介護過程の実践的展開　事例５　（グループワーク） |
| 29 | 介護過程の実践的展開　事例５　（グループワーク） |
| 30 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護過程Ⅲ | 芝田　由佳 | ☑ | 介護福祉士として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 「介護過程Ⅲ」では、介護過程とケアマネジメントの関係性、チームアプローチにおける介護福祉士の役割について学ぶ。また介護実習との関連を視野に入れ、本人の望む生活の実現に向けて、アセスメントを行い、根拠に基づく介護実践のための思考過程を習得する。他の関連科目で学んだ知識や技術を実際の利用者支援に向けて、どのように活かしていくのかを考えることを目的とする。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・ケアマネジメントを理解できる。<br>・介護保険制度での居宅介護サービスについて理解できる。<br>・ケアカンファレンスについて理解できる。<br>・ケースカンファレンスの理解ができる。 | 個別ワークやグループワークが多いため、積極的に臨むこと。グループワークでは、個々が意見を出しやすい雰囲気を意図的に創ること。「介護総合演習Ⅲ」「介護実習Ⅲ」と連動している。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 教科書や資料を使用し授業を展開する。適宜、個人ワークやグループワークを行う。 | 他科目で学習した内容も含め復習をすること。提出課題等は各自で行い、提出期限を守ること。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験40%、課題の提出40%、授業への参加状況20%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座9 介護過程（第2版）』中央法規出版　「実習の手引き」信州介護福祉専門学校 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　介護過程とケアマネジメント１　ケアマネジメントの全体像 |
| 2 | 介護過程の展開の実際１ |
| 3 | 介護過程の展開の実際２ |
| 4 | 介護過程の展開の実際３ |
| 5 | 介護過程の展開の実際４ |
| 6 | 介護過程の展開　ケーススタディとは |
| 7 | 実習における介護過程の振り返り１　介護過程とチームアプローチ |
| 8 | 実習における介護過程の振り返り２　介護過程とチームアプローチ |
| 9 | 実習における介護過程の振り返り３　事例検討 |
| 10 | 実習における介護過程の振り返り４　事例検討 |
| 11 | 介護過程とケアマネジメント２　ケアプランと個別援助計画の関係性 |
| 12 | 介護過程とケアマネジメント３　チームアプローチの意義 |
| 13 | 介護過程とケアマネジメント４　チームアプローチの実際 |
| 14 | 利用者の生活と介護過程の展開　介護福祉士の魅力 |
| 15 | まとめ |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 介護過程Ⅳ | 工藤和子　山下科子<br>芝田由佳　髙山恭平 | ☑ 介護福祉士・看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 「介護過程Ⅳ」では、介護実習Ⅲで介護過程を展開した事例を通して得られたテーマから探究を行い発表までの準備を行う。実習における介護過程展開の振り返りを行うとともに、自らのテーマを設定したうえで情報収集し整理・分析し成果物を作成するとともに発表までを行う。また、介護を実践するための基盤となる教養や倫理的態度をもち、これまで学習した知識・技術を土台に自身の介護観を築き上げることを目的とする。 | 2年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・探究課題レポートを作成できる。<br>・成果物について学内でプレゼンテーションができる。<br>・介護観について自分の言葉で発表することができる。 | 「介護総合演習Ⅲ」「介護実習Ⅲ」と連動している。文献検索等の探求心をもち、自主的に取り組むこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 実習Ⅲの介護過程の展開について得られたテーマを深く調べて考えた上で、筋道をたどって明らかにする。適宜資料を配布する。担当教員の指導を受けながら、個人ワークを行う。 | 文献検索をはじめケーススタディのまとめとしての論文等の作成については、時間外におこなうこととなるため計画的に行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 課題の設定/情報収集/整理・分析をした探究レポート、発表に向けた準備、出席状況等について総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座9 介護過程（第2版）』<br>『最新 介護福祉士養成講座10介護総合演習・介護実習（第2版）』中央法規出版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 介護過程の展開　探究１（テーマを決める） |
| 2 | 介護過程の展開　探究２（課題の設定） |
| 3 | 介護過程の展開　探究３（情報収集） |
| 4 | 介護過程の展開　探究４（情報収集） |
| 5 | 介護過程の展開　探究５（情報収集） |
| 6 | 介護過程の展開　探究６（整理・分析） |
| 7 | 介護過程の展開　探究７（整理・分析） |
| 8 | 介護過程の展開　探究８（整理・分析） |
| 9 | 介護過程の展開　探究９（構成する） |
| 10 | 介護過程の展開　探究10（構成する） |
| 11 | 介護過程の展開　探究11（構成する） |
| 12 | 介護過程の展開　探究12（発表準備） |
| 13 | 介護過程の展開　探究13（発表準備） |
| 14 | 介護過程の展開　探究14（発表準備） |
| 15 | 介護過程の展開　探究15（発表） |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護総合演習Ⅰ | 芝田由佳　工藤和子<br>髙山恭平　山下科子 | ☑ | 介護福祉士・看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/40時間 | 20回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 「介護総合演習」は、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養う科目であり、介護実習と連動している。「介護総合演習Ⅰ」では、介護総合演習の目的を理解し、介護実習の意義と目的、実習の種類、実習前準備、実習中・実習後の学習内容と方法などの実習の全体像について学ぶ。また、さまざまな実習先の特徴を学とともに「介護実習Ⅰ」の概要を理解し、実習に向けた準備や振り返りを行うことを目的とする。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・介護総合演習の目的、介護実習の意義と目的、種類について理解できる。<br>・介護実習前後、介護実習中の学習内容と方法について理解できる。<br>・自らの実習先の特徴について理解できる。<br>・介護実習Ⅰの振り返りを行い、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養うことができる。 | 実習に向けての準備は計画的に行い、提出期限を厳守すること。実習に関連する情報の管理を適切に行うこと。積極的な姿勢で授業に取り組むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書、実習の手引きを使用し、実習に臨むための事前学習、準備や振り返りを行う。また、理解を深めるために個人ワークおよびグループワークを行うとともに、実習前の発表や報告などを行う。 | 出された課題は、期限までに提出できるように授業時間外で取り組むこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 課題等提出物50%、発表や準備等の授業へ取り組む姿勢50%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（第2版）』中央法規出版<br>「実習の手引き」2024年度版（16期生）信州介護福祉専門学校 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　介護総合演習の位置づけ　介護総合演習の目的 |
| 2 | 介護実習の意義と目的 |
| 3 | 介護実習の枠組みと全体像の理解 |
| 4 | 介護実習の枠組みと全体像の理解 |
| 5 | 介護実習Ⅰの概要説明 |
| 6 | 実習施設・事業所の理解 |
| 7 | 実習施設・事業所がある地域の理解 |
| 8 | 実習先の事前学習 |
| 9 | 実習個人票・誓約書の作成　事前オリエンテーション準備 |
| 10 | 実習個人票・誓約書の作成　事前オリエンテーション準備 |
| 11 | 事前オリエンテーション |
| 12 | 実習記録の意義・目的・方法について |
| 13 | 実習記録の書き方 |
| 14 | プロセスレコードの意義・目的　書き方 |
| 15 | 実習カンファレンス　実習にあたっての心がまえと留意点　実習の流れ　書類の確認 |
| 16 | 実習決意表明 |
| 17 | 実習後指導/実習まとめ（記録のまとめ、お礼状） |
| 18 | 実習後指導/実習まとめ（記録のまとめ、お礼状） |
| 19 | 実習報告会（学びの共有） |
| 20 | 実習報告会（学びの共有）実習Ⅱに向けて |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護総合演習Ⅱ | 芝田由佳　工藤和子<br>髙山恭平　山下科子 | ☑ | 介護福祉士・看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/40時間 | 20回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 「介護総合演習」は、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養う科目であり、介護実習と連動している。「介護総合演習Ⅱ」では、「介護実習Ⅱ」の概要を理解し、「介護実習Ⅰ」の振り返りから介護実習Ⅱに向けた自己課題を明確にし、実習に向けた準備を行う。また、実習後の振り返りを行うことで自己課題を解決することの大切さを理解する。実習施設や事業所の理解とともに、多職種を理解し、質の高い介護実践のための記録やその方法を学ぶことを目的とする。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・自らの実習先の特徴について理解できる。<br>・実習課題である記録物の書き方や活用方法を理解できる。<br>・介護実習Ⅱに向けた自己課題や学習課題を明確にし、実習に向けた準備ができるとともにそれを言語化できる。<br>・実習の振り返りを行い、自己課題を明確にして言語化することができる。 | 実習に向けての準備は計画的に行い、提出期限を厳守すること。実習に関連する情報の管理を適切に行うこと。積極的な姿勢で授業に取り組むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書、実習の手引きを使用し、実習に臨むための事前学習、準備や振り返りを行う。また、理解を深めるために個人ワークおよびグループワークを行うとともに、実習前の発表や報告などを行う。 | 出された課題は、期限までに提出できるように授業時間外で取り組むこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 課題等提出物50%、発表や準備等の授業へ取り組む姿勢50%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（第2版）』中央法規出版<br>「実習の手引き」2024年度版（16期生）信州介護福祉専門学校 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　介護実習Ⅱの概要説明　実習配属先発表 |
| 2 | 実習施設・事業所の理解 |
| 3 | 実習施設・事業所がある地域・サービスの理解 |
| 4 | 実習先の役割とそこで働く職種の理解 |
| 5 | 実習施設・事業所概要記録の作成 |
| 6 | 実習個人票・誓約書の作成（目標・課題等） |
| 7 | 実習前オリエンテーションについて |
| 8 | 介護過程の展開における個人情報の取り扱い　介護過程の意義　アセスメント |
| 9 | 実習記録物の書き方 |
| 10 | 実習カンファレンスについて |
| 11 | 実習記録の確認　学びと課題について |
| 12 | 実習決意表明 |
| 13 | 実習帰校日　実習課題の振り返り　記録物の確認 |
| 14 | 実習まとめ |
| 15 | 実習後指導/実習まとめ（記録のまとめ、お礼状） |
| 16 | 実習後指導/実習まとめ（記録のまとめ、お礼状） |
| 17 | 介護過程アセスメント振り返り（個人） |
| 18 | 介護過程アセスメント振り返り（グループ） |
| 19 | 実習報告会（学びの共有） |
| 20 | 実習報告会（学びの共有）実習Ⅲに向けて |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護総合演習Ⅲ | 工藤和子　芝田由佳<br>髙山恭平　山下科子 | ☑ | 介護福祉士・看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/40時間 | 20回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 「介護総合演習」は、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し専門職としての態度を養う科目であり、介護実習と連動している。「介護総合演習Ⅲ」では、「介護実習Ⅰ・Ⅱ」はもとより学んできた全てのことを活かすための事前準備を行う。「介護実習Ⅲ」に向け、利用者の生活を理解し、コミュニケーションを行う基本的能力を習得し、本人の望む生活の実現に向けた多職種との協働の中で介護過程を実践する能力を培う。また、実習後に実習を振り返りケーススタディを行うことを目的とする。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・1年次に学んだ知識を活用し、長期実習に向けた準備ができる。<br>・自己課題を明確にし、それに取り組むために行動することができる。<br>・他教科との関連を意識し、必要な知識や技術の統合ができる。<br>・事例研究の意義や目的を理解し、ケーススタディを進めることができる。<br>・実習前後に学びがあることを理解したうえで言語化し発表することができる。 | 実習に向けての準備は計画的に行い、提出期限を厳守すること。実習に関連する情報の管理を適切に行うこと。積極的な姿勢で授業に取り組むこと。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 教科書、実習の手引きを使用し、実習に臨むための事前学習、準備や振り返りを行う。また、理解を深めるために個人ワークおよびグループワークを行うとともに、実習前の発表や報告などを行う。 | 出された課題は、期限までに提出できるように授業時間外で取り組むこと。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 課題等提出物60%、発表や準備等の授業へ取り組む姿勢40%で総合的に判断する。 | 『最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（第2版）』中央法規出版<br>「実習の手引き」2024年度版（16期生）信州介護福祉専門学校 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　実習配属先の確認　介護実習Ⅲの概要　実習施設・事業所・地域・サービスの理解 |
| 2 | 多職種の理解　実習先概要の作成　実習個人票・誓約書の作成　ケーススタディとは |
| 3 | 実習カンファレンスについて　実習記録物の確認　学びと課題について |
| 4 | 実習前オリエンテーション |
| 5 | 実習決意表明 |
| 6 | 実習帰校日① |
| 7 | 実習帰校日② |
| 8 | 実習後指導/実習まとめ（記録のまとめ、お礼状） |
| 9 | 実習における介護過程の振り返り |
| 10 | ケーススタディ１　（何をして何を学んだのか） |
| 11 | ケーススタディ２　（何をして何を学んだのか） |
| 12 | ケーススタディ３　（内容の筋書きを作る） |
| 13 | ケーススタディ４　（内容の筋書きを作る） |
| 14 | ケーススタディ５　（構成を考える） |
| 15 | ケーススタディ６　（構成を考える） |
| 16 | ケーススタディ７　（報告サマリーの作成） |
| 17 | ケーススタディ８　（報告サマリーの作成） |
| 18 | ケーススタディ９　（報告会準備） |
| 19 | ケーススタディ10　（報告会準備） |
| 20 | ケーススタディ11　（報告会） |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護実習Ⅰ | 山下科子　芝田由佳<br>工藤和子　髙山恭平 | ☑ | 介護福祉士・看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/80時間 | 10日間 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護実習では、利用者とのかかわりを通して人間形成に必要な基礎的なコミュニケーション技術を学ぶ。入居や入所施設の利用者の生活、在宅あるいは在宅に近い生活の場で生活支援がどのように展開されているかを学ぶ。利用者や職員との関係について、実習を振り返り、介護福祉士としての基本的な態度を理解することを目的とする。 | 1年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 実習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・利用者を尊重したコミュニケーションを図ることができるとともに、基本的なマナーを実践し、実習生としての責任ある行動がとれる。<br>・利用者の生活の状況や生活の多様性を理解するとともに、基本的な介護技術、利用者に応じた介護技術を理解し、自立を支える生活支援が実践できる。<br>・施設や事業所の概要と役割を理解するとともに、介護職以外にどのような人が利用者の生活を支えているかを理解できる。 | 実習は学校指定の実習着で臨むこと。わからないことは自分で判断せずに、実習指導者や教員に報告・連絡・相談を行うこと。実習中に知り得た情報等は漏らさないことはもちろん、情報の管理を徹底すること。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 学校で指定された介護現場で実習を行う。週に1回程度、教員が巡回を行い、実習指導者と学生ともにカンファレンス、巡回指導を行う。 | 実習前に実習にかかわる科目について復習を行うこと。実習中は、提出物の期限を守るようにすること。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 実習施設と教員の評価に基づき「実習評価」により評価する。実習評価は、各実習の介護実習評価表に基づき、実習指導者による「施設評価」40%と実習指導担当教員による「介護実習評価」60%とを合算して行う。 | 『最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（第2版）』中央法規出版<br>「実習の手引き」2025年度版（17期生）信州介護福祉専門学校 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | ・施設や事業所の概要について事前学習を行ったうえで実習に臨み、概要についてのオリエンテーションを受ける。 |
| 2 | ・プロセスレコードを作成し、利用者とのかかわりを振り返り、考察することができる。 |
| 3 | ・実習指導者、職員、巡回教員、学生同士で報告、連絡、相談をする。 |
| 4 | ・利用者の生活全般を観察する。 |
| 5 | ・利用者の生活歴や障害などについて情報を収集する。 |
| 6 | ・介護技術の見学をし、指導者とともに介護技術を実践する。 |
| 7 | ・申し送り等に参加し、情報共有の場を見学するとともに、他職種の配置数を確認する。 |
| 8 | |
| 9 | |
| 10 | ※実習時間の80時間の中には、カンファレンスと巡回指導を含む。 |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護実習Ⅱ | 山下科子　芝田由佳<br>工藤和子　髙山恭平 | ☑ | 介護福祉士・看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 5単位/176時間 | 22日間 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 利用者の状況に合わせたコミュニケーション技術や基礎的な介護技術や障害の状況に応じた応用的な介護技術を実践して学ぶ。施設や事業所と地域のつながりについて学ぶ。また、介護過程の展開のうち、アセスメントを実践し、利用者の個別の生活課題を把握する技術を身につけることを目的とする。 | 1年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 実習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・利用者の特性に合わせたコミュニケーションが実践できる。<br>・利用者の特性と生活状況を理解し、基本的な生活支援技術の実践に加え、利用者の状況に応じた介護の内容を理解し、自立を支える生活支援技術を実践できる。<br>・利用者が暮らす地域の特性、実習施設の概要と役割を理解し、実習施設が地域住民に向けて実施している活動や地域とのつながりを理解できる。<br>・介護に必要な情報を意図的に収集することができ、情報の解釈・関連づけ・統合化を行い、生活上の課題を明確化することができる。 | 実習は学校指定の実習着で臨むこと。わかならないことは自分で判断せずに、実習指導者や教員に報告・連絡・相談を行うこと。実習中に知り得た情報等は漏らさないことはもちろん、情報の管理を徹底すること。 |

| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
|---|---|
| 学校で指定された介護現場で実習を行う。週に1回程度、教員が巡回を行い、実習指導者と学生ともにカンファレンス、巡回指導を行う。期間中、2日間は帰校日とし学校内にて学習を行う。 | 実習前に実習にかかわる科目について復習を行うこと。実習中は、提出物の期限を守るようにすること。 |

| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
|---|---|
| 実習施設と教員の評価に基づき「実習評価」により評価する。実習評価は、各実習の介護実習評価表に基づき、実習指導者による「施設評価」40%と実習指導担当教員による「介護実習評価」60%とを合算して行う。 | 『最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（第2版）』中央法規出版　「実習の手引き」2025年度版（17期生）信州介護福祉専門学校 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | ・施設や事業所の概要について事前学習を行ったうえで実習に臨み、概要についてのオリエンテーションを受ける。 |
| 2 | ・適切な挨拶、言葉遣い、身だしなみで行動する。 |
| 3 | ・利用者の話を傾聴する。<br>・様々な特性をもった利用者とのコミュニケーションを実践する。 |
| 4 | ・介護技術の実際を見学する。 |
| 5 | ・指導者とともに軽介助の利用者から重度の利用者の生活支援技術を実践する。 |
| 6 | ・実習施設の地域特性や環境の説明を受ける。 |
| 7 | ・実習施設が地域住民に向けて実施している活動について説明を受けるとともに、施設と地域とのつながりを理解する<br>・早番や遅番を体験する。 |
| 8 | ・申し送りに参加し、情報共有の場面を見学する。 |
| 9 | ・他職種の業務内容について見学し、多職種が参加するカンファレンスを見学する |
| 10 | ・他職種からの情報収集や指導を受ける。 |
| 11 | ・利用者の生活を観察し、生活歴や障害について情報収集のする。<br>・受け持ち利用者を設定しアセスメントを行う。 |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | ※実習時間の176時間の中には、カンファレンスと巡回指導を含む。 |
| 16 | ※実習期間中、2日間は帰校日とし学校内において学習を行う。 |
| 17 | |
| 18 | |
| 19 | |
| 20 | |
| 21 | |
| 22 | |

介護

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 介護実習Ⅲ | 山下科子　芝田由佳<br>工藤和子　髙山恭平 | ☑ | 介護福祉士・看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 6単位/200時間 | 25日間 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 利用者のアセスメント、計画の立案、実施、評価、修正までを行い介護過程の展開能力を身につける。夜勤や変則勤務を体験し24時間の介護活動を学ぶ。利用者の多様な障害状況に応じた介護技術を習得する。また、多職種の連携、利用者を支える仕組みについて理解し、チームメンバーの役割について実践的に学ぶ。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 実習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・受け持ち利用者の介護過程を展開できる。<br>・利用者の特性に合わせたコミュニケーションや生活支援技術を実践することができる。<br>・利用者と地域との関わりを理解できる。<br>・多職種連携を理解できる。<br>・介護福祉士としての基本的な態度を身につけ、自らの介護観を形成することができる。 | 実習は学校指定の実習着で臨むこと。わかならないことは自分で判断せずに、実習指導者や教員に報告・連絡・相談を行うこと。実習中に知り得た情報等は漏らさないことはもちろん、情報の管理を徹底すること。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 学校で指定された介護現場で実習を行う。週に1回程度、教員が巡回を行い、実習指導者と学生ともにカンファレンス、巡回指導を行う。期間中、2日間は帰校日とし学校内にて学習を行う。 | 実習前に実習にかかわる科目について復習を行うこと。実習中は、提出物の期限を守るようにすること。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 実習施設と教員の評価に基づき「実習評価」により評価する。実習評価は、各実習の介護実習評価表に基づき、実習指導者による「施設評価」40%と実習指導担当教員による「介護実習評価」60%とを合算して行う。 | 『最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習（第2版）』中央法規出版<br>「実習の手引き」2025年度版（17期生）信州介護福祉専門学校 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | ・さまざまな特性をもつ利用者とのコミュニケーションを実践する。 |
| 2 | ・指導者とともに、さまざまな特性をもつ利用者の生活支援技術を実践する。 |
| 3 | ・夜勤実習を1回体験する。早番と遅番を体験する。 |
| 4 | ・終末期の介護、医療依存度の高い利用者の介護の見学を行う。 |
| 5 | ・利用者と地域との関わりを継続する支援の実際について説明を受けるとともに、見学や参加をする。 |
| 6 | ・申し送りに参加し、情報共有の場面を見学する。また、多職種が参加するカンファレンスを見学する。 |
| 7 | ・夜間や緊急時の多職種連携の方法について説明を受け、理解する。 |
| 8 | ・委員会活動や勉強会などの内容や実施方法について説明を受ける。<br>・受け持ち利用者を設定し、アセスメント、計画立案、計画の実施、評価、修正を行う。 |
| 9 | ※実習時間の200時間の中には、カンファレンスと巡回指導を含む。 |
| 10 | ※実習期間中、2日間は帰校日とし学校内において学習を行う。 |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |
| 15 | |
| 16 | |
| 17 | |
| 18 | |
| 19 | |
| 20 | |
| 21 | |
| 22 | |
| 23 | |
| 24 | |
| 25 | |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 医療的ケアⅠ | 竹原　美津子 | ☑ | 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、医療に関する周辺的、理論的知識・技術を学ぶ。医療行為を実施することへの自覚と責任を養う。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 講義 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1．生命の尊重、医行為に伴うリスクについて理解できる。<br>2．医療的ケアを必要とする人や家族の生活や気持ちを理解する。<br>3．清潔・不潔、感染予防の基礎知識が理解できる。<br>4．正しい感染予防対策が実施できる。 | 医療的ケアは利用者に直接的な影響を与えるケア技術であることを踏まえて学習に臨むこと。<br>実技演習は真剣に積極的に取り組むこと。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 講義と演習を中心とした授業を行う。 | 復習と継続した練習を行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験、課題、出席および授業へ取り組む態度を総合的に評価する。定期試験 80%、出席および授業への取り組む態度20% | 教科書：<br>中央法規出版 最新介護福祉士養成講 15<br>「医療的ケア」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | ガイダンス 医療的ケア実施の基礎 |
| 2 | 医療的ケア実施の基本 |
| 3 | 医療的ケア実施の基本 |
| 4 | 安全な療養生活 |
| 5 | 安全な療養生活 |
| 6 | 安全な療養生活 応急手当 救急蘇生の演習　普通救命救急 |
| 7 | 安全な療養生活 応急手当 救急蘇生の演習　普通救命救急 |
| 8 | 清潔保持と感染予防 |
| 9 | 清潔保持と感染予防 |
| 10 | 清潔保持と感染予防 |
| 11 | 清潔保持と感染予防 |
| 12 | 健康状態の把握 |
| 13 | 健康状態の把握 |
| 14 | 健康状態の把握 |
| 15 | まとめ |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|
| 医療的ケアⅡ | 工藤　和子 | ☑ 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| ・喀痰吸引に関する用具の取り扱いや清潔の保持の方法を学び、具体的な手順について理解する。また、実施するにあたっての注意点やその根拠について学ぶ。<br>・「医療的ケア」の「喀痰吸引」についての定められた演習と評価を実施する。 | 2年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1．喀痰吸引を安全に実施するための基礎的知識が理解できる。<br>2．喀痰吸引を安全に実施するための実施手順書を作成。<br>3．「喀痰吸引」の評価基準にもとづいた手技を習得できる。 | 技術試験があるため、真剣に取り組むこと。科目試験が合格点にならなければ演習に進めない。医療的ケアは利用者に直接的な影響を与えるケア技術であることを踏まえて学習に臨むこと。基礎医学で学んだ知識を活用すること。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 講義と演習を中心とした授業を行う。<br>実技は教員がデモンストレーションを行った後、シミュレーターを用いて実践を行う。 | 科目試験に合格できるように復習を行う。<br>技術試験に合格できるように、身につくまで繰り返し練習すること。指定課題は必ず提出すること。基礎医学で学んだことを復習する。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 定期試験、課題、出席および授業へ取り組む態度を総合的に評価する。科目試験後演習にて評価を行う。 | 教科書：<br>中央法規出版　最新介護福祉士養成講 15<br>「医療的ケア」第2版 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 喀痰吸引の基礎知識 呼吸のしくみと機能 呼吸状態の観察と見かた　痰の性状と喀痰吸引の必要な状態 |
| 2 | 喀痰吸引の基礎知識 呼吸のしくみと機能 呼吸状態の観察と見かた　痰の性状と喀痰吸引の必要な状態 |
| 3 | 喀痰吸引の基礎知識 人工呼吸器と吸引　気管カニューレ内部の吸引　人工呼吸器の装着者の支援上の留意点 |
| 4 | 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意　呼吸器系の感染と予防 |
| 5 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施の手順 |
| 6 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施の手順 |
| 7 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施の手順 |
| 8 | 喀痰吸引の手順と実施 |
| 9 | 喀痰吸引の手順と実施 |
| 10 | 喀痰吸引の手順と実施 |
| 11 | 科目試験 |
| 12 | 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引演習・評価 |
| 13 | 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引演習・評価 |
| 14 | 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引演習・評価 |
| 15 | 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引演習・評価 |

こころとからだのしくみ

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 医療的ケアⅢ | 工藤　和子 | ☑ | 看護師として病院と福祉施設において実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 1単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 胃ろう・腸ろう経管栄養と経鼻経管栄養に関する用具の取り扱いや清潔の保持の方法を学び、具体的な手順について理解する。また、実施するにあたっての注意点やその根拠について学ぶ。<br>「医療的ケア」の「経管栄養」についての定められた演習と評価を実施する。 | 2年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 1．胃ろう・腸ろう経管栄養と経鼻経管栄養を安全に実施するための基礎的知識が理解できる。<br>2．胃ろう・腸ろう経管栄養と経鼻経管栄養を安全に実施するための実施手順書を作成。<br>3．「経管栄養」の評価基準にもとづいた手技を習得できる。 | 技術試験があるため、真剣に取り組むこと。科目試験が合格点にならなければ演習に進めない。医療的ケアは利用者に直接的な影響を与えるケア技術であることを踏まえて学習に臨むこと。基礎医学で学んだ知識を活用すること。 |
| **【授業の方法】** | **【授業時間外学修（予習・復習等）】** |
| 講義と演習を中心とした授業を行う。<br>実技は教員がデモンストレーションを行った後、シミュレーターを用いて実践を行う。 | 科目試験に合格できるように復習を行う。<br>技術試験に合格できるように、身につくまで繰り返し練習すること。指定課題は必ず提出すること。基礎医学で学んだことを復習する。 |
| **【成績評価の方法と基準】** | **【教科書・参考書】** |
| 定期試験、課題、出席および授業へ取り組む態度を総合的に評価する。科目試験後演習にて評価を行う。 | |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 経管栄養の基礎知識　消化器系のしくみと機能　消化・吸収とよくある消化器の症状 |
| 2 | 経管栄養の基礎知識　経管栄養とは　胃ろう・腸ろう・経鼻経管栄養 |
| 3 | 経管栄養の基礎知識　経管栄養実施上の留意点　経管栄養に関する感染と予防 |
| 4 | 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意　経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 |
| 5 | 高齢者および障害児・者の経管栄養実施の手順 |
| 6 | 高齢者および障害児・者の経管栄養実施の手順 |
| 7 | 高齢者および障害児・者の経管栄養実施の手順 |
| 8 | 経管栄養の手順と実施 |
| 9 | 経管栄養の手順と実施 |
| 10 | 経管栄養の手順と実施 |
| 11 | 科目試験 |
| 12 | 高齢者及び障害児・者の経管栄養演習・評価 |
| 13 | 高齢者及び障害児・者の経管栄養演習・評価 |
| 14 | 高齢者及び障害児・者の経管栄養演習・評価 |
| 15 | 高齢者及び障害児・者の経管栄養演習・評価 |

その他

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 国家試験対策 | 工藤和子　芝田由佳<br>髙山恭平　山下科子 | ☑ | 介護福祉士・看護師として、高齢者施設等で5年以上の実務経験があり、その経験を基に授業を行う。 | 2単位/60時間 | 30回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護福祉士国家試験に向けて、これまでの学びの総復習を行い、必要な知識の習得ができているかを確認することで、自らが苦手とする科目の弱点の克服をする。学内模試や外部業者による模擬試験、学力評価試験などの模擬試験を受け、国家試験の傾向を掴むとともに試験の雰囲気に慣れることを目的とする。 | ２年次 | 後期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| 介護福祉士国家試験に出題される全ての領域の基本的な知識を習得できる。 | 模擬試験は休まずに出席すること。出席できなかった場合は、補講として放課後残り模擬試験を受験すること。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 各領域について必要な知識の確認を行う。模擬試験を実施し、弱点科目を抽出する。問題の解説やノート作成を行う。 | 苦手科目が抽出された際は、各自で学習をすること。わからない問題は調べるなど、意欲的に学習に向かうこと。模擬試験後は、各自解説を行い提出期限に提出すること。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 模擬試験の成績60%　授業への取り組み40%で総合的に評価する。 | 『最新 介護福祉士養成講座1～15 （第2版）』中央法規出版　他、指定された参考書等（各自購入予定）配布資料 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | 学内模擬試験１-① |
| 2 | 学内模擬試験１-② |
| 3 | 学内模擬試験２解説 |
| 4 | 人間と社会① |
| 5 | こころとからだのしくみ①医療的ケア① |
| 6 | 介護① |
| 7 | 外部模擬試験①（午前） |
| 8 | 外部模擬試験①（午後） |
| 9 | 外部模擬試験①解説 |
| 10 | 人間と社会② |
| 11 | こころとからだのしくみ②医療的ケア② |
| 12 | 介護② |
| 13 | 学内模擬試験２－① |
| 14 | 学内模擬試験２－② |
| 15 | 学内模擬試験２解説 |
| 16 | 人間と社会③ |
| 17 | こころとからだのしくみ②医療的ケア③ |
| 18 | 介護③ |
| 19 | 学力評価試験（午前） |
| 20 | 学力評価試験（午後） |
| 21 | 学力評価試験解説 |
| 22 | 外部模擬試験②（午前） |
| 23 | 外部模擬試験②（午後） |
| 24 | 外部模擬試験②解説 |
| 25 | 学内模擬試験３-① |
| 26 | 学内模擬試験３-② |
| 27 | 学内模擬試験３解説 |
| 28 | 学内模擬試験４-① |
| 29 | 学内模擬試験４-② |
| 30 | 学内模擬試験４解説 |

その他

| 【授業科目名】 | 【担当教員名】 | 【実務経験教員による授業】 | | 【単位数/授業時数】 | 【回数】 |
|---|---|---|---|---|---|
| 就職実務 | 高山恭平　工藤和子<br>芝田由佳　山下科子 | □ | | 1単位/30時間 | 15回 |

| 【授業の概要（内容）と目的】 | 【履修年次】 | 【開講学期】 |
|---|---|---|
| 介護福祉職として求められる人材について理解し、必要書類や就職試験対策を行う。自らの進路を明確にし、希望する進路を実現するために社会のマナーを理解しスキルを身につける。また、就職を見据えた今後の学生生活において、意欲をもって学習や実習に臨むことができるようにすることを目的とする。 | 2年次 | 前期 |
| | 【授業形態】 | 【履修区分】 |
| | 演習 | 必修 |

| 【授業の到達目標】 | 【履修上の注意事項】 |
|---|---|
| ・適切な自己表現をすることができる。<br>・希望する就職先から内定をもらうことができる。 | 日々の言葉遣いや行動を意識する。個々の希望する就職先の採用試験内容や日程は異なるため、積極的に自ら行動することが必要である。 |
| 【授業の方法】 | 【授業時間外学修（予習・復習等）】 |
| 外部の人事担当者等を迎え、法人の概要や実際の就職について説明を受ける。就職先に応じた必要な書類や就職試験内容の個人ワークおよびグループワークを行う。 | 福祉関連ニュースはもちろん社会全般に興味を持ち、内容を理解する。就職試験の前には面接練習等を個別に設定することがあるため、準備を行うこと。 |
| 【成績評価の方法と基準】 | 【教科書・参考書】 |
| 提出物40%、授業へ取り組む姿勢60%によって総合的に評価する。 | プリント配布 |

【授業計画（各回のテーマ・内容）】

| コマ数 | 授業内容 |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション　就職希望調査　求人票のよみ方 |
| 2 | 就職説明会① |
| 3 | 就職説明会② |
| 4 | 就職活動見学・面接時の心得① |
| 5 | 就職活動見学・面接時の心得② |
| 6 | 履歴書の作成/添え状・お礼状等作成練習/メール対応練習① |
| 7 | 履歴書の作成/添え状・お礼状等作成練習/メール対応練習② |
| 8 | 履歴書の作成/添え状・お礼状等作成練習/メール対応練習③ |
| 9 | 採用試験対策/小論文・作文の練習/履歴書の作成① |
| 10 | 採用試験対策/小論文・作文の練習/履歴書の作成② |
| 11 | 採用面接練習① |
| 12 | 採用面接練習② |
| 13 | 採用面接練習③ |
| 14 | 採用面接練習④ |
| 15 | 採用面接練習⑤ |